

# 平成30年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

## 目 次

I 概 況	.....	P 1
II 公益目的事業 1		
1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）	.....	P 2
1) 「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施		
2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業		
2 産業人材を育成する事業	.....	P 3
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業		
※（別紙1）参照		
2) 北九州における技能伝承活動に関する事業		
3 次世代を担う人材を育成する事業	.....	P 7
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業		
※（別紙2）参照		
4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業	.....	P 7
1) 「1000人の夢寄金」事業		
5 まちづくり推進事業	.....	P 11
1) まちの活性化推進事業		
2) まちの活性化に関する情報発信事業		
III 公益目的事業 2		
北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業	.....	P 12
※（別紙3）参照		
IV 法人運営事業	.....	P 13
1 組織運営体制の強化		
1) 中長期的な組織運営体制の再構築		
2) 事務局の事業管理の強化		
3) 事業運営体制の整備促進		

- 2 財務体質改善の推進
  - 1) 自主財源の開発、研究
  - 2) 寄付金事業の事業化
  
- 3 会員募集と会員サービスの向上
  - 1) 会員募集の強化
  - 2) 会員サービスの向上
  
- 4 会議等の開催
  - 1) 評議員会の開催
  - 2) 理事会の開催
  - 3) 執行役員会議の開催

## I. 概況

平成30年の日本経済は、米国発の貿易戦争への懸念や、中国経済の減退、英国のEU離脱問題と不安定な海外政治情勢等といった不透明要素は残るものの、外需主導で緩やかな回復が続いた。

北九州地域経済の動向も、緩やかに拡大し生産も全体として高水準で推移した。雇用情勢は引き続き改善し、有効求人倍率は1.58倍となり、新規求人倍率は3.19倍となった。しかし、人材を確保が困難になったことにより、一部の企業に深刻な影響が生じ始めており、人手不足を解消していくためには、ミスマッチの解消、潜在労働力の就業促進、労働生産性の向上といった施策に取り組んでいくことが重要課題となっている。

KPECの事業に於いては、北九州市の「まち・ひと・しごと創生戦略」と、国の「地方大学・地方産業創生事業」等と連動した「産学連携・地域協働」による「産業人材育成フォーラム事業」の地域システム創り、北九州市立小学校全131校を対象にして進める「北九州の企業人による小学校応援団事業」の拡充と地域システム化、各種関連イベントの企画による寄付環境づくりを進める「1000人の夢寄金事業」の拡充を図った。また、「もったいない総研事業」については、「えこっパー」の更なるブランドの浸透と普及活動を推進した。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、第3期4年目を迎え、北九州市の産業・技術継承とものづくり人材の育成に向けた各事業を行った。

また、経営体制及び事務局運営体制については、地域活性化における他団体との連携を図り、設立30周年を迎えるにあたり、今後のKPECの運営の方向を定めた体制の再構築を行い、経営健全化のための財務体質の改善等を進めた。

平成30年度の事業実施状況は以下のとおりである。

## II 公益目的事業 1

北九州市域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

平成30年度は、以下の事業を実施した。

### 1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)

K P E Cの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた、新しい事業について方向性を検討し、新規事業の事業化に向けた研究を行った。

#### 1) 北九州紙「エコっパー」の普及に関する企画・研究の実施

「エコっパー」の普及拡大（周知）を目的に「第1回環境首都北九州 SDGs アワード ESD 表彰」に応募し、特別賞を受賞した。（テーマ：『リサイクルトイレットペーパー「北九州紙エコっパー」による“もったいない”を未来に引き継ぐ事業』）

ESD表彰授賞式（北九州ESDフォーラム）において「エコっパー」の活動発表を行い、行政・市民・各種NPO団体に向けて「エコっパー」のPRを行った。

平成30年度の「エコっパー」の販売数は、18万8,000パック（6個入り）であり、平成13年からの販売総数は、333万パックを超え、個数にして、2,000万個を突破した。

（牛乳パック：2,300万枚と古紙：800トンのリサイクルに相当）

#### 2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

シビックプライドのコンテンツとして、関係団体と連携し、保存・継承等のファシリティマネージメントの視点からの研究を実施した。

##### (1)北九州における近現代建築の研究

北九州イノベーションギャラリー（K I G S）と連携し、北九州における近現代建築の基礎調査・研究を行った。（K I G S研究報告書：「北九州における近現代建築の地域資源としての意味と評価」）

##### (2)旧百三十銀行ギャラリーの指定管理の受託

近現代建築物の保存・継承等のファシリティマネージメントの企画・研究を目的に「特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会」と旧百三十銀行ギャラリー管理運営共同事業体を編成し、旧百三十銀行ギャラリーの指定管理者に応募し、平成31年4月1日から5年間の指定管理者の指定を受けた。「守る会」の持つ近現代建築に関する知見、保有資料と当協議会の産・学・地域とのネットワークを活用し、北九州地域の活性化に繋がる活動を目指す。

## 2 産業人材を育成する事業

地元理工系大学・高専等と中堅・中小企業との協働による産業人材育成の地域システムの構築と、これを活用した地域企業の経営力（人材力）強化と雇用環境の改善を図るため、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、青少年から社会人に至る産業人材育成の地域システム創りとその持続的発展の仕組み創りを進めた。

また、北九州市と協働で、北九州市における技能伝承活動に関する事業を実施した。

### 1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

事業報告の具体的な内容は、「平成30年度北九州地域産業人材育成フォーラム事業報告書」（別紙1）の通り

### 2) 北九州における技能伝承活動に関する事業（新）

#### （1）「北九州技の達人」認定に関する事業

北九州で長年にわたり技能の研鑽、後進の育成に努め、優れた技能で産業振興や市民生活の向上に貢献している技能者を「北九州技の達人」として認定・表彰し、その優れた技能を次代に継承する活動を支援する事業。

#### ①認定に向けての活動

- i) 第10回北九州技の達人の募集を北九州市ホームページに掲載したほか、チラシやポスターを作成、配布、また、関係先団体などへも募集案内を行った。その結果、12名の応募があった。
- ii) 有識者、学識経験者で構成する検討会を2回開催、12名の中から次の9名の推薦者を決定した。

#### 森山 一江氏(洋裁)

- ・様々な受賞歴があり、また森山ドレスメーカー学院を創設し、後進育成にも尽力されている。
- ・着物の古着をリサイクルして、新たなドレスを創作するなど、卓越性に優れている。

#### 緒方 弘氏(調理師 日本料理)

- ・鰻の焼き方など、その加工方法と独特で、オリジナリティが優れている。
- ・全国的に知られおり、北九州技の達人として推薦するに相応しい。

#### 三原 毅氏(調理師 日本料理)

- ・伝統文化として格式が高い日本包丁道大草流家元の師範免許皆伝を受け、その技能を後世に継承を目的として後進の指導も積極的に実施している。
- ・北九州市料理検定の検定委員を務めるなど、広範にわたる活動をしている。

### **白石 信和氏(造園工)**

- ・豊富な経験と技能の持ち主であり、伝統的に本庭園はもとより、現代建築様式にも融合する庭作りの技法や創造性において高い評価を得ている。
- ・厚生労働省認定のものづくりマイスターとして、福岡県内の高等学校で造園技能検定の実技指導を行うなど多岐にわたった後進育成に注力している。

### **原田 耕治氏(調理師 寿司)**

- ・北九州市の寿司の業界において第一人者のひとりで、後進の指導・育成にも尽力している。
- ・「北九州の旬の素材」を活用した商品づくりを進めており、一方で北九州子ども料理王選手権などいろいろな食育活動に取り組んでいる。

### **小島 啓介(畳工)**

- ・京都畳技術協議会で最優秀賞(京都府知事賞)を受賞するなど、特に文化財建物畳技師として寺社仏閣における畳制作には秀でた技術を持っている。
- ・厚生労働省認定のものづくりマイスターとして、後進育成、技能の向上に尽力している。

### **丸山 道和(菓子製造販売)**

- ・福岡県を代表するブランドイチヂク「とよみつ姫」を使用した菓子を創作するなど、地元産品、地場産業の振興に努めている。
- ・自らが「北九州市菓子組合」を創設し、業界の連携を図るとともに、組合活動を通して後進の育成に努めている。

### **二宮 和男(紋章工芸)**

- ・当技能に関する業界自体は小さいものの、刺繍工芸分野で圧倒的な技能を持っている。
- ・様々な技能、技法を駆使して新しい加工が施された生地などにも対応できるよう日々工夫をしている。

### **寺井 剛史(ウエイター ソムリエ)**

- ・ウエイターとしての職務領域の拡大に向けた新たな分野にも積極的にチャレンジしている。
- ・自らが率先して「北九州ウエイター向上委員会」を立ち上げ、お客様へのおもてなし技術の向上と後進の育成を進めている。

## **②認定手続き**

北九州市長が第10回北九州技の達人として推薦者9名を認定した。

## **③技の達人認定者紹介DVDの作成**

認定者の市民に対する周知を目的に、認定者の技能等を紹介するDVDを作成するとともに北九州市ホームページに紹介動画を掲載した。

## **④表彰式、及び祝賀会の開催**

北九州市長、及び北九州市議会副議長出席のもと、表彰式、及び祝賀会を開催した。

- i) 開催日時 平成30年12月15日(土)14:00~15:00、祝賀会を15:00~16:00
- ii) 開催場所 ステーションホテル小倉 4F 豊饒の間

## (2) 北九州マイスター匠に学ぶ技能講習会に関する業務

地元の工業高校生を対象に、種目別に技術・技能指導を行い、最終日に技能競技大会を実施・表彰し、次世代のものづくり技術者を養成する業務。

### ①開催概要

#### 【平成 30 年度開催日程】

	講習会①	講習会②	講習会③	競技大会	表彰式
開催日	10月6日	10月13日	10月27日	11月24日	1月24日

#### 【会場】

ポリテクセンター福岡(北九州市八幡西区穴生 3-5-1)

#### 【参加高校】

- ・小倉工業高等学校
  - ・八幡工業高等学校
  - ・戸畑工業高等学校
  - ・苅田工業高等学校
  - ・豊国学園高等学校
  - ・真颯館高等学校(溶接のみ)
  - ・希望が丘高等学校
- 計 7 校

#### 【開催講習会・種目】

講習会 :被覆アーク溶接、仕上げ、旋盤

競技大会:被覆アーク溶接、仕上げ

#### 【受講者人数】 35 名

### ②講習会の実施

i) 本講習会の開催日程に基づき、以下のとおり北九州マイスターへ指導を依頼。

講習会・種目	講師の人数	マイスター氏名		
被覆アーク溶接	3名	淵 徳生	小林 秀稔	古川 誠喜
仕上げ	3名	有松 靖之	梅田 茂美	村上 英俊
旋盤	1名	中村 清二		

ii) 競技大会の開催

本講習会参加者を対象に 11月24日(土)に競技大会を開催。

競技種目	審査項目	審査依頼先
被覆アーク溶接	・外観検査 ・曲げ審査	(一社)日本溶接協会 九州地区溶接技術検定委員会
仕上げ	・赤当たり審査(平面度)	新日鐵住金(株)八幡製鐵所
	・寸法精度・平行度・直角精度	北九州マイスター2名 (有松氏、村上氏)

### ③表彰式の開催

上記競技大会参加者の中から各競技項目について上位3名を選出し、表彰した。

- ・開催日時 平成 31 年 1 月 24 日(木) 16:00~16:30
- ・開催場所 北九州イノベーションギャラリー プレゼンテーションスタジオ



### (3) 北九州マイスター匠塾に関する業務

北九州の中堅・中小企業の若手技術者に対し、コース別に技能を伝授し、若手の技術・技能および安全意識を向上し、企業の将来の発展に寄与する業務。

#### ①開催概要(前期)

##### 【参加企業】

(有)ファルコン、黒崎播磨セラコーポ(株)、ベルテクネ(株)、オガワ機工(株)、ステンレス工機(株)、(株)矢野特殊自動車、(株)荒木工作所、サカエ理研工業(株)、(有)コーヨー鉄工所、(株)フジコー

**10 企業・17名参加**

##### 【日程】

コース	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日	6月16日	※会場
旋盤	○	○			○	○	カレッジ
仕上げ			○	○	○	○	カレッジ
溶接	○	○			○		センター
フライス盤	○	○			○		センター

※会場 カレッジ:九州ポリテクカレッジ、センター:ポリテクセンター福岡

#### ②開催概要(後期)

##### 【参加企業】

(株)筑豊製作所、(株)トーカイ、戸畑鉄工(株)、濱田重工(株)、アールジエイ商事(株)

**5 企業・8名参加**

##### 【日程】

コース	1月12日	1月19日	1月26日	※会場
溶接	○	○	○	センター

### (4) 北九州マイスター技能伝承倶楽部に関する業務

#### ①北九州マイスターヘルプデスク事業

平成30年度：依頼件数0

#### ②北九州マイスター技能伝承倶楽部総会・懇親会の開催について

次の日程で北九州マイスター技能伝承倶楽部の第6回通常総会及び懇親会を開催。

日時 平成30年6月30日(土) 17:00~18:30 場所 大谷会館

### (5) その他の新たな取り組み

新たな取り組みとして主に次の事業で北九州マイスターの技能伝承活動機会を創出。

#### ①高校生を対象とした北九州キャリア教育研究会「夢授業」に職業人として参加

(北筑高校、八幡中央高校2校、受講者：100名)

#### ②岩手大学附属中学校研修旅行の一環として12名のマイスターが各自の技能を紹介

(受講者：136名)

#### ③九州工業大学に対し、『仕上げ』の実演・実習を行った。

(受講者：30名)

- ④安川マニュファクチャリング(株)の社員に対して、技能オリンピックに向けての技術指導を実施。  
(受講者：10名)

### 3 次世代を担う人材を育成する事業

#### 1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校131校を対象に、出前授業、教員研修及びPTA活動促進支援事業を実施した。  
また、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書(平成25年4月1日締結)に基づき、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を開催した。

事業報告の具体的内容は、「平成30年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」(別紙2)の通り

### 4. 都市格(教育力・文化力)を向上する事業

#### 1) 「1000人の夢資金」事業

都市格(教育力・文化力)の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「1000人の夢資金」事業を継続実施し、第7回助成事業を行った。

##### (1) 「1000人の夢資金」寄付募集事業

###### ① 法人・団体会員に対する寄付金額の見直し

個人の一口3,000円を基本とした寄付を地道に集めていく「一般募金部会」のうち、法人・団体会員に対する寄付金額を一口10,000円に設定し、平成30年1月より推進開始。新規法人会員および既存法人会員の増額等により合計63件、647千円の申込みを受け付けた。

今年度の一般寄付額は、1,284千円を計上し、前年比38%増と大幅に向上した。

###### ② 預金口座定期引落としによる寄付募集

- ・第3回引落日 平成30年10月22日(月)
- ・引落件数59件 金額404千円

個人の継続ご寄付の引落とし方法として平成28年から地元金融機関4行に取引のある寄付者の預金口座の定期引落としによる寄付金の募集を開始した。

今後も預金口座定期引落としの拡大を推進する。

※参考：平成29年第2回引落件数41件、金額245千円  
前年度に比べ、65%向上(金額比)

###### ③ 寄付金受け入れ体制の運営

- i) 寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の寄付金優遇税制を生かしたチラシを作成し、香典返しや特定ご寄付等に対応できる体制を整備し継続中。

ii) 寄付金受け入れ体制の維持

個人からの寄付に対して、郵便専用口座振込とあわせて地元各銀行共通の振込用紙を制作し、個人の振込手数料の軽減策を対応中。

iii) 寄付金の毎年徴収の推進

平成31年1月末納入の既存寄付先に対し、年度分寄付の督促を行い徴収率の向上を図った。

④ 寄付金受入れ方法の多様化推進

具体的な目標を持った「P（プロジェクト）募金部会」の運営体制を強化した。

i) 北九州発のリサイクルトイレットペーパー・北九州紙「えこっパー」（平成13年より販売開始）を製造・販売している大分製紙株式会社より、昨年度に引き続き、200千円のご寄付をいただいた。（平成30年9月20日）。

ii) 第5回1000人の夢寄金 チャリティーゴルフコンペ開催

- ・日 時：平成30年11月5日（月）
- ・場 所：若松ゴルフ倶楽部
- ・参加人数：71名参加
- ・チャリティー寄付金額：213千円
- ・事業主体：（公財）北九州活性化協議会

iii) 第3回1000人の夢寄金 チャリティーバザー クラフト・チクチク開催

- ・日 時：平成30年10月26日（金）、27日（土）
- ・場 所：北九州まなびとESDステーション
- ・来場者数：2日間延べ300人以上
- ・チャリティー寄付金額：167千円

vi) ボランティアグループ「シマウマ組」によるぬいぐるみ販売代金のご寄付

チャリティーバザー クラフト・チクチクから派生した、ボランティアグループ「シマウマ組」（二十数名の地元で活動する女性有志）による、小倉織の端切れ生地から創りだす縫いぐるみ「縞縞のシマウマ」「時時ヨコシマなカバ」の販売の売上金の一部をご寄付頂いた。（平成29年度より継続）

平成30年度寄付実績は、128頭分、寄付金額384千円。

⑤ 平成30年度 寄付金募集実績

第7期（平成30年4月から平成31年3月まで）の寄付金募集実績

- ・寄付者数：185名（累計件数：延べ626名）
- ・寄付金額：総額 2,272千円（累計金額12,771千円）

※参考：過去の寄付金実績

（単位：千円）

年 度	種 別	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
一般寄付	基本寄付 (法人・個人)	1,975	1,498	1,739	583	832	860	637
〃	法人1万円会員	-	-	-	-	-	70	647

P寄付	チャリティー ゴルフ	-	288	264	-	261	243	213	
"	チャリティー バザー	-	-	-	-	218	269	167	
"	シマウマ組	-	-	-	-	-	399	408	
"	えこっパー	-	-	-	-	200	200	200	
大口寄付	香典返し	-	-	-	-	600	-	-	
入金額合計			1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272

## (2) 「1000人の夢寄金」活動資金助成事業

### ① 1000人の夢寄金 助成事業審査委員会の継続運営

1000人の夢寄金の趣旨に沿って公正性を持った審査を行うため、7名の審査員で構成する助成事業審査委員会を運営するとともに、審査委員会運営規定に規定する審査方法および審査基準に則り、厳正な審査体制を維持した。

### ② 助成先の募集と選定

平成30年10月から平成31年9月を事業対象期間として、平成30年7月に1ヶ月間、第7回助成先の募集を行った。全16事業の応募に対して1000人の夢寄金審査委員会の審査を経て、昨年度より助成金額を500千円増額し、総額2,000千円の助成金を下記9事業に決定・配分した。

#### 【平成30年度 第7回 助成先9事業】

助成先	助成金額 (千円)	事業名	事業概要
KITAG MUSIC BATTLE PROJECT 代表 藤田大吾	500	KITAG MUSIC BATTLE	北九州地域に住む、若手ミュージシャンの活動・育成の場を広げ、地元から新たな才能を発掘する。
もじこう・アート・プラ ットフォーム 代表 池上貴弘	200	MAP 玄関口プロジェクト 2018	門司港における「空き物件や歴史的建造物のリノベーションと文化的活用」 「地域で活動するアーティスト支援」 に取り組む。現場重視・地域住民を巻き込んだ活動は地域活性化に大きく貢献している。
(一社)北九州青年経営 者会議 ヤングサンタ 実行委員会 代表 丹生谷雅俊	300	第20回ヤングサンタ チャリティー吹奏楽コン サート、プレゼント配布イ ベント	小さな子供から参加できる吹奏楽コンサートの実施および病気のためにクリスマスを自宅で過ごせない子どもたちや家庭の事情で家族と一緒に過ごせない子どもたちに夢とプレゼント(絵本)を届ける。

北九州文化連盟 代表 井生定巳	250	北九州市制55周年・北九州文化連盟創立55周年記念	北九州の文化を支える子どもたちの芸術・文化活動を通してシビックプライドを醸成し、将来的な北九州の文化の担い手を育成する。
絵本カーニバル実行委員会 代表 村岡純	250	旅する絵本カーニバル in 東田	環境ミュージアム、エコハウスでの400冊の絵本展示を中心に隣接するドームでの絵本ミュージカル、パフォーマンス、影絵、人形劇、星のお話とプラネタリウム他、日替わりイベントやワークショップを開催。「絵本を楽しみ、絵本で愛をつなぐ」がコンセプト。
(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子	200	子どもたちが主体的に生きる力を育む「生き方のデザイン授業」	障害があることを強みに自分らしい生き方をしている人たちを「生き方のデザイナー」と称し子どもたちと交流を深める「生き方のデザイン授業」を小中学校のカリキュラムの中で展開する。
八万湯プロジェクト実行委員会 代表 森秀信	150	やはたアート・マンス2018 ～パレットの樹～関連企画「EAT IT!」	JR八幡駅周辺を中心として、八万湯プロジェクトメンバーの北九州・筑豊・山口地域のアーティストによる「食」をテーマにした芸術表現、絵画、映像、写真、空間造形を楽しむ美術展を開催する。
北九州キャリア教育研究会 代表 木原大助	100	キャリア教育『夢授業』	北九州市内を中心として他周辺地域の企業人が小中学校に出向き、子どもたちと「働くことの意義」について語り合う「夢授業」を提供するプログラム。
竹凜共振プロジェクト 代表 田中昇三	50	竹凜共振プロジェクト	竹林資源の有効活用の発想から生まれた「竹チェロ」「竹バイオリン」等、竹製楽器の制作・演奏活動を行なう。環境保全に関する普及啓発活動も実施している。

※参考：過去の助成実績

(単位：千円)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
応募件数	10件	14件	10件	19件	16件	10件	19件
助成件数	4件	6件	7件	7件	9件	9件	9件
助成金額(千円)	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000

※累計助成金額：11,049千円

### (3) 広報・プロモーション事業の実施

#### ① 広報ツールの作成及び広報の実施

##### i) 「1000人の夢寄金」ホームページ及びfacebookの活用

専用ホームページおよびfacebookによる1000人の夢寄金の広報を行うと共に、助成先各事業活動（第7回助成先9先）のうち全先を既に取材済み。トピックスをタイムリーに掲載・発信した。

##### ii) メーリングリストの活用

メーリングリストの登録を進め、1000人の夢寄金メルマガ配信先の増加に努めた。

#### ② Web投票の実施

申請のあった助成先を対象として一般から広く助成事業に対する意見を求めるWeb投票第3回目を実施した。

## 5 まちづくり推進事業

### 1) まちの活性化推進事業

#### (1) 「KPEC事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究

もったいない総研事業における北九州地域資産発掘・活用事業「北九州市民財産としての『北九州における近現代建築物』の保存と継承及び活用について」をテーマに調査・研究を行った。

#### (2) 地域づくりネットワークの構築

##### ①北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局:KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを実施した。当協議会からは、地元北九州の唯一のプロサッカーチーム『ギラヴァンツ北九州』の支援・応援の呼びかけ、および、リサイクルトイレットペーパー「えこっパー」の各団体の会員への利用促進への協力、2019年10月にKPEC30周年記念講演会と連携して開催を予定している「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」(講師:経済同友会代表幹事の小林喜光氏)への共催への協力をお願いした。

##### ②地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たした。

#### (3) まちづくり事業の支援、協働の実施

##### ①北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画、開催され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

## ② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進する「北九州市にぎわいづくり懇話会」（平成19年に設置）において、企画調整委員会（委員長：城水副理事長）へ参画し、にぎわいづくり認定事業において、21事業を認定し支援を行った。

## 2) まちの活性化に関する情報発信事業

### (1) 情報受発信の強化

K P E Cの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行及びホームページの運用を行った。

#### ① K P E Cニュースの発行

K P E Cの運営及び事業を、K P E C会員及び関連団体に広く広報するために、K P E Cニュースを発行した。

（ Vol.63 6月発行 発行部数：1000部 ）

#### ② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、K P E C事業活動情報をタイムリーに発信した。

#### ③ メール送信システムの整備

会員企業及び事業関連組織等のメーリングリストの整備を行い、セミナー等事業の円滑な運営に資すると共に、K P E Cの地域ネットワークの構築を行った。

## Ⅲ 公益目的事業 2

### 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー（K I G S）は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる（1）人材活用・育成、（2）産業技術の保存継承（技術の知と心の継承）、（3）技術革新（イノベーション）の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、博物館を媒体とした技術教育を通し、世界に貢献できる人材の育成を行うことが目的である。

平成30年度は、次世代の北九州を支えるイノベーターの創出を目的に、「北九州地域産業人材育成フォーラム青少年育成プログラム事業」活動や各種教育・研究機関、企業等と連携して、小・中・高校生等を重点対象とした新たな「ものづくり教育」事業を開発し、実施するとともに、企業技術者や研究者、大学生、工業高校生等の交流の場を創出し、高度技術人材育成環境の構築を推進した。また、北九州市の要請に基づき、北九州マイスターとの連携と活用による「技能・技術の継承」を推進する「技能教育」の拡充のための環境づくりを実施した。

事業報告の具体的な内容は、「平成30年度北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業報告書」（別紙3）の通り。

## IV 法人運営事業

### 1 組織運営体制の強化

H23年度以降実施してきた事業開発、実施の方向性の確認と事業化の進捗を振り返り、今後に向け、KPEC創設趣旨と地域における組織的位置づけの再確認を行い、これに対応した組織体制の構築を進めた。

#### 1) KPECの事業運営・管理体制の整備

KIGSを含むKPECの事業運営・管理体制の再構築を行い、KIGSの事業運営体制の強化を図ると共に、主要業務の拡充、新規事業実施等に対応した本部の体制整備を行った。また、新規事業の企画立案、外部資金調達、地域連携の促進等にかかる事務局体制の強化を図った。

#### 2) 新規企画事業、事業の外部化に対応した人材活用環境の構築

新規事業「旧百三十銀行ギャラリーの指定管理」の受託にあたり、KPECと「特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会」とで「旧百三十銀行ギャラリー管理運営共同事業体」を編成した。(平成31年4月1日から受託開始)

#### 3) 事業運営体制の整備促進

「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」「北九州の企業人による小学校応援団事業」等、事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業については、KPECの役割と各事業における関係機関・組織等(ステークホルダー)の分掌を明確にして、事業の自立的運営のための体制づくりを検討した。

### 2 財務体質改善の推進

指定管理事業を含むKPECの経営管理について、事業運営フレームの改廃、改善及びコスト削減を図ると共に、新しい収入財源の開拓、研究等を進め、中長期的な視点で、経営体質の改善、強化を進めた。

#### 1) 自主財源の開発、研究

主要事業を活用した外部資金活用研究、指定管理等の受託事業の開発など、収支改善、財政基盤強化のための環境調査及び事業企画の研究を行った。

#### 2) 寄付金事業の事業化

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、『KPEC 寄付のお願い』パンフレットを作成し、29年度より、当協議会賛助会員等へ寄付活動を推進した。

### 3 会員募集と会員サービスの向上

#### 1) 会員募集の強化

会員情報の整理を行い、『KPECパンフレット』を活用して、新規会員募集および賛



助会費未納の会員に対し、賛助会費の請求を実施した。

平成30年度賛助会費額：2,230千円（会員数93名 対前年：▲20千円減額）

## 2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、KPECが実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

## 4 会議等の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

### 1) 評議員会の開催

- ・ 定時：平成30年6月25日
- ・ 臨時：平成31年3月11日

### 2) 理事会の開催

- ・ 第1回定時：平成30年6月5日
- ・ 第2回定時：平成31年2月18日
- ・ 第1回臨時：平成30年7月27日

### 3) 執行役員会議の開催（月1回）

- ・ 第1回：平成30年 4月13日
- ・ 第2回：平成30年 5月22日
- ・ 第3回：平成30年 6月13日
- ・ 第4回：平成30年 7月18日
- ・ 第5回：平成30年 8月23日
- ・ 第6回：平成30年 9月19日
- ・ 第7回：平成30年11月 2日
- ・ 第8回：平成30年12月14日
- ・ 第9回：平成31年 1月22日
- ・ 第10回：平成31年 2月12日
- ・ 第11回：平成31年 3月25日

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム  
**平成30年度事業報告書**

## I 概況

平成 30 年の日本経済は、米国発の貿易戦争への懸念や、不安定な欧米の政治情勢等といった不透明要素は残るものの、外需主導で緩やかな回復が続いた。

企業収益が過去最高を記録する中で、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続くなど、経済の好循環は着実に回りつつある。この結果、平成 30 年度の実質国内総生産（実質 GDP）成長率は 0.9%程度の上昇と見込まれ、完全失業率は 2.3%（平成 31.2.）まで下がり、有効求人倍率も 1.63 倍（平成 31.1.）の高水準となり、雇用情勢は着実に改善している。

しかし、景気の回復に伴う労働需要の高まりに対して、労働供給が追いつかず、中小企業を中心に人手不足感はバブル期並みの水準となっている。

北九州地域経済の動向も、緩やかに拡大し生産も全体として高水準で推移した。雇用情勢は引き続き改善し、平成 30 年 12 月の有効求人倍率は 1.58 倍、新規求人倍率は 3.19 倍となった。

一方で、人材確保ができなかったことにより一部の企業には事業に深刻な影響が生じ始めており、人手不足を解消していくためには、地域企業の認知向上、地元就職希望者とのミスマッチの解消、企業の採用力強化などの施策に取り組んでいくことが重要課題となっている。

北九州市の「まち・人・しごと創生戦略」を踏まえつつ、国の「地方大学・地方産業創生事業」等と連動した「産学連携・地域協働」による産業人材育成の地域システム創りを目指し、多面的な事業の開発と拡充を進めてきた産業人材育成フォーラムも、新しい環境変化に対応した事業の集約と再構築が必要になってきている。

こうした環境を踏まえ、平成 30 年度の産業人材育成フォーラム事業は、各事業プログラムの拡充と集約を行い、概ね事業計画を達成した。

### （1）高度人材育成プログラム

「地域連携型インターンシップ事業」は、「研修型（短期）インターンシップ」に加え、学生の実践力育成や企業の課題解決を目的にした「実践型（長期）インターンシップ」の事業化を進めた。

また、北九州高専の長期インターンシップの運営の仕組み作り等、教育目的別のインターンシップの環境開発を行うと共に、連携校インターンシップコンソーシアムの運営協議を通じて、連携校の主体的事業参加の環境づくりを行った。

### （2）社会人育成プログラム

九工大の学術支援制度の稼働、北九大の長期履修制度の新設等、連携校におけるリカレント教育機能が整備されたことで、環境開発のためのプロジェクトを終了し、フォーラム協働企業を対象にした制度活用の促進のためのプロモーションを実施した。

### （3）青少年育成プログラム

北九州地域の工学、科学関連イベント情報のソリューションシステムの“かがたま（科学の玉手箱）”の運用に入ると共に、早期工学教育の環境づくりについては、初期の懸案であった北九州イノベーションギャラリーとの協働による事業運営の環境づくりを行った。

### （4）地域クラスター形成プログラム

フォーラム事業協働企業の会員化の推進、各種関連調査及び統計の実施等、フォーラム事業の持続的発展のための運営環境づくりを進めると共に、人づくり革命や地方創生戦略等の政策を踏まえたフォーラム事業の運営環境の整備を行った。

平成 30 年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は次の通りである。

## II.事業計画の内容

### 1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

研修型(短期)インターンシップの拡充を図るとともに、実践型(長期)インターンシップの事業化のための環境づくりを実施した。

#### 1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

##### (1) 研修型(短期)インターンシップ事業の実施結果

全国的な就活型インターンシップの開催が展開される中で、教育を目的とした「研修型(短期)インターンシップ」の協働企業の拡充と、連携校における企業情報の学内広報等を行い、ビジネスモデルの拡充を行った。

- ・ 実施実績企業数：174 社 (H26～H30 年度で 1 回以上実施した企業の合計 ※廃業等企業は含まない)
- ・ 合計実施率 : 55.2% (実施対象・実施対象候補企業数 315 社のうち、174 社で実施)

##### <研修型(短期)インターンシップの実施結果>

	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度		平成 27 年度		平成 26 年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
参加校	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5
参加企業数	83	32	88	39	88	53	95	67	92	82
参加学生数	74	65	74	65	103	90	135	118	167	137

##### (2) 実践型(長期)インターンシップ事業の実施結果

九州工業大学を中心に「実践型(長期)インターンシップ」の事業スキームの研究と、大学の環境づくりを行うと共に、「イノベーション誘発型」「課題解決型」等の実践型(長期)インターンシップ事業の開発を行った。

##### ① 実践型(長期)インターンシップの実施結果

企業・組織名	形態	インターンシップテーマ	九工大	
			工学部	情報
プラテック	業務・課題	ホームページ保守サービス管理システムの構築		1名
リョーワ	業務・課題	既存 AI の簡易アプリケーション体験	1名	
K O A	業務・課題	センサモジュール評価実習	1名	
東洋電機 工業所	業務・課題	3次元 CAD を用いたポンプ、及びポンプ部品のモデリング	1名	
メイト黒崎	研究・課題	黒崎メイト屋上スペースの地域センター化に向けたリニューアル	4名	

##### ② 実践型(長期)インターンシップの Co-op 教育システム化の研究・実施

北九州高専の長期インターンシップ(本科、専攻科)の運営スキームの開発と企業の受け入れ環境づくりを実施した。

##### <北九州高専長期インターンシップ実施実績>

	平成 30 年度	
	専攻科	本科
参加企業	9	13
参加学生	10	18

③ **イノベーション誘発型(長期)インターンシップの開発と実証事業の実施**

フォーラム実践型(長期)インターンシップのスキームを活用し、地域の中堅・中小企業の IoT 分野の技術導入等を目的とした「イノベーション誘発型(長期)インターンシップ(仮称)」事業の開発及び実証事業を実施した。

＜イノベーション誘発型(長期)インターンシップの実施実績＞

企業・組織名	形態	インターンシップテーマ	九工大	
			工学部	情報
戸畑ターレット工作所	課題解決	スマートファクトリー化のための IoT 生産管理システムの構築	1名	
リョウワ	研究開発	機械学習の可能性について		1名
熱産ヒート	課題解決	自主保全のためのマニュアル作成	1名	

④ **実践型(長期)インターンシップ事業実施企業別・形態別モデルプランの作成**

実践型(長期)インターンシップ事業の実施を通じて、H28 年度に作成した事業マニュアル修正と事業スキームの検討を行った。

⑤ **実践型(長期)インターンシップ事業プロジェクトの編成**

「実践型(長期)インターンシップ」の事業化に向けた環境整備を行うため、インターンシップ実施企業、大学関係者及びコーディネーターによる実践型(長期)インターンシップ研究プロジェクトの編成準備を行った。

(3) **留学生対応型インターンシップ運営研究プロジェクトの編成**

地域企業の外国人人材採用ニーズを踏まえ、FAIS 留学生支援オフィスと連携して、留学生を対象としたインターンシップの企画・開発を行う予定であったが、環境が整わず未実施に終わった。

2) 「地域連携型インターンシップ」の実施環境の整備と運営体制の拡充

(1) **地域連携型インターンシップの運営体制の整備**

① **研修型(短期)インターンシップ連携校運営コンソーシアムの運営と運用**

インターンシップの実践的運営ノウハウの研究とフォーラム事業の課題を解決し、連携校の相互連携を強化することを目的に、インターンシップ担当教員及び関係部門スタッフにより構成する“地域連携型インターンシップ運営コンソーシアム”を開催した。

〈参考：協議事項抜粋〉

- ・コンソーシアム関係大学等の方向性確認のためのアンケート調査と研修事業の企画、開発
- ・地域企業情報の学内提供方法の検討とツールの作成(ベストワン企業情報誌の作成)
- ・学生のインターンシップ参加率向上を目的とした情報提供システムの研究
- ・キャリアアップ型インターンシッププログラムについての実践的研究と実施環境検討
- ・フォーラム事業協働企業(ものづくりベストワン企業)研究・交流会の企画調整 (ほか)

(2) 「地域連携型インターンシップ」に関わるビジネスモデルの拡充と整備

インターンシップ事業の実践を通じて、「地域連携型インターンシップビジネスモデル」の改善と拡充を推進した。

① **大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)の実施**

連携校における「地域連携型インターンシップ」の周知を図るため各大学別インターンシップセミナー(ガイダンス)を実施した。

＜大学別インターンシップ推進セミナー(ガイダンス)実施結果＞

九州工業大学	北九州市立大学	西日本工業大学	北九州高専
350名 (258/245/422名)	20名 (59/97/120名)	150名 (190/260/187名)	200名 ※クラス毎に実施 (200/205/200名)

※( )内は H29/H28/H27 年度参加者数

② **インターンシップミーティングの拡充実施**

学生の地域連携型インターンシップ参加率向上とインターンシップ実施企業のニーズの把握を目的にインターンシップミーティングを開催した。なお、九工大開催（主な対象校：九工大工学府・工学部、西工大、高専）のインターンシップミーティングは開催を見送った。

＜インターンシップミーティングの実施結果＞

会場	開催日	学生数	企業数	参加大学
北九州 市立大学	平成 30/5/31(水)	19名	6社	北九大13名、九工大4名、早稲田2名

③ **「学生のための北九州ものづくり企業発見ツアー」の実施**

地域連携型インターンシップ事業と連携して、地元企業の認知向上を目的に、北九州商工会議所の産業観光事業と共催で企業見学ツアー事業を実施した。

＜学生のための北九州ものづくり企業発見ツアー実施結果＞

実施内容	九工大	北九大	西工大	高専	合計
開催日：平成 31/2/22(金) 見学企業 ①計測検査(株) ②熱産ヒート(株) ③九州鉄道機器製造(株)	1	5	5	0	11

④ **「北九州地域ものづくりベストワン企業情報誌」の制作と活用の推進**

連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、フォーラム協働企業（北九州地域ものづくりベストワン企業 122 社）を収録したオリジナル企業情報誌を作成し、連携校における各分野での利用を進めた。

〈作成部数〉 6,000 部 〈配布先〉 連携校：学部 2 年～3 年、大学院：修士

⑤ **専用ウェブサイトによるインターンシップ事業のシステム化の促進 (継)**

ホームページを活用したインターンシップ事業関連の情報の共有化を促進し、大学、企業関係者及び対象学生のアクセス向上を図ると共に、事業運営の効率化を図った。

2. **社会人育成プログラム事業の企画、運営**

中堅・中小企業の経営管理人材及び中核技術人材のリカレント教育のために、連携大学・高専の地域貢献事業や制度等の活用促進事業を行うと共に、北九州大学 K2BS と連携した経営管理者の経営力強化の事業企画を実施した。

## 1) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた環境開発

フォーラム連携校のリカレント教育の制度等の調査を行い、フォーラム協働企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のためのプロモーション事業を実施した。

### (1) 連携校における社会人育成プログラムの調査と利用促進プロモーションの実施

連携校における社会人プログラムの設置状況を調査し、関係パンフレット等の広報ツールを集約し、フォーラム協働企業等に告知し活用促進を図った。

### (2) 連携校における社会人育成プログラムの調査と利用促進事業の実施

地域企業の中核技術者等のリカレント教育のために、フォーラムの社会人育成プログラム研究プロジェクトが提案したテクニカルカレッジプログラム（H29年度「学術指導制度」制度化）の活用促進を、フォーラム事業コーディネーター等によりフォーラム協働企業対して行った。

\* 九工大学術指導制度（テクニカルカレッジプログラム）の活用状況

H29年度	件数 19 件（内北九州地域 5 件）	H30年度	31 件（内北九州地域 4 件）
-------	---------------------	-------	------------------

## 2) 中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的とした環境開発

北九州市立大学大学院マネジメント研究科(K2BS)と連携して、経営管理者の経営力強化を目的とした事業の企画・運営を行った。

### (1) 「MBA サテライトフォーラム」の企画・実施

北九州市立大学大学院マネジメント研究科(K2BS)のイベント公開講座型から企画内容を変更し、地元中堅・中小企業の採用力強化を目的としたプログラム「中堅・中小企業向け『採用力強化セミナー』」した。

\* 地元中小企業経営者等と現役3年生、4年生を加えた混合5チームを編成し、中小企業における人事採用問題についてグループワークし、令和2年度採用活動に向けての具体的な採用プランを策定した。

企業参加者数	学生参加者数	実施要領
24 名	17 名	DAY1、DAY2、DAY3 の 3 日間(3 か月)で開催。 参加者を 5 チームに分けて、採用に関するテーマを選定しグループワーク形式とした。

### (2) ケーススタディメソッドによる中小企業の実践経営研究講座・車座塾の実施

北九大 K2BS の教員がコメンテーターとなり、社会人起業大学九州校と連携、地元中小企業の経営者や担当者が実際の事業経験に基づく「経営継承」「新事業創造」等を基本テーマとした発表を行った。その内容を材料として、経営分析を行い、中小企業経営者や管理職に対するケーススタディメソッドによる実践経営研究会(車座塾)を実施した。

<平成 30 年度 車座塾実施結果>

開催日	発表者	テーマ	コメンテーター	参加者
第 3 回 18.7.10	脇野 正裕 氏 (株)ワキノアート ファクトリー 代表取締役	本業回帰の是非と事業継承 ～地域密着企業 B 社のケースを読み解く～	K2BS 教授 城戸、高橋	14名
第 4 回 18.9.4	渡邊 あや 氏 (株)マキシム 取締役社長	2 代目経営者のリーダーシップとは？ ～美容室マキシムのケースを読み解く～	K2BS 教授 鳥取部、城戸、 高橋	20名
第 5 回 19.2.21	新名 宗明 氏 岸川商事(株) 営業部課長	CSV 視点の新規事業創造 ～岸川商事の遺品整理業への展開～	K2BS 教授 城戸、高橋	22名

**(3) MBAホルダーによる白熱講座の開発、実施**

北九州市立大学 K2BS マネジメント研究会と連携して、地元中小企業経営者（MBAホルダー）による経営学カリキュラムを編成し、連携校等における講座開設等の活用環境づくりを進めた。令和 2 年度の九州工業大学大学院教育プログラム編成替えに合わせ、「技術系のための MBA 流実践経営講座」の導入準備と、北九州高専における導入についての調整を行った。

**3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営**

平成 29 年度までに実施した北九州および先進地におけるものづくり教育の状況調査及び試行事業等を踏まえて、青少年育成プログラム研究プロジェクトを編成し、早期工学教育についての環境づくりについての検討を行った。

本プログラムは、「技術教育を通じて次代のイノベーター創出・育成を図る」目的で設置された「北九州イノベーションギャラリー（KIGS）」等と有機的連携を行い、事業の持続的運営の環境づくりを行った。

**1) 早期工学教育関連事業情報のソリューション機能の構築**

**(1) 「北九州地域科学・工学教育情報マップ “かがたま” の運営、管理**

平成 29 年度に立ち上げた早期工学教育関連事業情報の専門サイト「北九州地域科学・工学教育情報マップ “かがたま” の拡充を行うと共に、運営体制の整備を行い、小中学校等関係機関をはじめ地域市民の活用促進のための環境づくりを行った。

**① イベント主催者として参加している機関**

九州工業大学、北九州市立大学、西日本工業大学、北九州工業高等専門学校、北九州イノベーションギャラリー、北九州市立児童文化科学館、TOTO株式会社（TOTOミュージアム）

**② かがたまへのアクセス数**

月	ページビュー数	訪問回数	ヒット数
4月	951	382	8,119
5月	5,722	472	27,128
6月	4,117	482	24,687
7月	3,382	1049	38,984
8月	3,608	1227	42,524

※平成 30 年 9 月～平成 31 年 3 月分は、サーバトラブルによりデータなし



## 2) ものづくり教育の事業開発・試行とコンテンツの企画・製作の実施

### (1) ものづくり教育モデル事業の企画、開発の実施

北九州イノベーションギャラリーと連携し、北九州地域の産業、技術のポテンシャルを生かしたものづくり教育事業の企画の開発と運営ノウハウの研究を行った。

以下は、北九州イノベーションギャラリーで実施した早期工学教育関連事業。

#### ① 工業系大学やものづくり中小企業と連携したワークショッププログラムの企画、実施

NO	事業名	実施日	参加者数 (見学含む)
1	オリジナルLED フォトスタンド作り 講師：小倉工業高校無線部	5/5	23(51)
2	電線で作るオリジナルいらいら棒 講師：光継会企業と協力してのテーマ開発	6/16	12(23)
3	本物の鉄道レールで作るブックエンド 講師：光継会企業と協力してのテーマ開発	6/16	11(21)
4	リサイクル素材で作るLED ランタン 講師：光継会企業と協力してのテーマ開発	6/16	8(17)
5	回路で遊ぼう！LED ルーレット 講師：九州工業大学衛星開発PJ メンバー	6/23	23(52)
6	回路で遊ぼう！電子スズムシ 講師：九州工業大学衛星開発PJ メンバー	9/17	22(48)
7	電子工作&実験「えんぴつピアノ・RC ドレミ」 講師：ヒューマンアカデミーサインズ教室	9/29	8(15)
8	工作教室実験&工作「つかめる水とオイルタイマー作り」 講師：北九州工業高等専門学校	2/2	3(5)

#### ② デジタル工房機能を活用したデジタルものづくり教室の企画、実施

北九州イノベーションギャラリーのデジタル工房機能を活用して、以下のデジタルものづくり教室を企画、実施した。

NO	事業名	実施日	参加者数 (見学含む)
1	レーザーカッターで周刻、マイリスト壁掛け時計を作ろう！	6/9～10	16(35)
2	歯車工作「くるくるコーヒーカップを作ろう！」	7/14～15	36(69)
3	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」	7/28～30 8/11～12	82(172)
4	「ころころゴム動力車を作ろう！」	8/4	188
5	まきまきタセルキーホルダー	8/24～25	348
6	「アクリルアクセサリ講座～レーザーカット・曲げ・染め～」	10/14～28	24(27)
7	「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」	10/21	10(20)
8	「コスモスカざぐるま」	10/27、28	648

9	「カラフル寄木でつくるオリジナルティッシュ箱」	1 1 / 1 1、1 8	14(20)
1 0	「電子工作でピカピカ光るオリジナルイラストツリーを作ろう」	1 1 / 2 3	16(33)
1 1	「親子でつくる冬のフェルトガーランド」	1 2 / 8～9	21(43)
1 2	「スタンプとステンシルでかわいい年賀状づくり」	1 2 / 1 6	13(27)
1 3	「ペン&めがねスタンドを作ろう！」	1 2 / 2 2	20
1 4	歯車工作「ころころコースターを作ろう！」	2 / 2 3～2 4	37(79)

### ③ 「世界一行きたい科学広場 in 北九州」の企画、開催

東田地区の博物館と連携して、「世界一行きたい科学広場 in 北九州」を企画、実施した。

- ・ 実施日：8月18日～19日 ・参加者数：2,523名
- ・ KIGSブースの協力者：戸畑工業高校、北九州高専、田原中学校の学生、生徒
- ・ 主な内容：空中コマ&紙ヒコーキ工作、不沈子づくり、万華鏡づくり、ペットボトル工作、ラジコン操作体験、ペットボトルロケット、スマートモビリティ操作体験、ミニ工場でいたん紙器づくり

### ④ 「わくわくワークショップまつり」の企画、開催

「わくわくワークショップ」を企画し、3月9日に実施し、4,126名の参加者だった。

NO	事業名	参加者数 (見学含む)
1	石をピカピカに磨いてコースターを作ろう！	18(47)
2	学んで作ろう！ ふりふり発電棒	32(64)
3	工房 de 金属加工 トライアングルフック	20(52)
4	ゆらゆらモビール作り	19(49)
5	小倉織体験・真田紐を織ってストラップを作ろう！	39(78)
6	みの虫キーホルダー	370(740)
7	A)KIGS オリジナルスタンプでしおりを作ろう！ B)木のどうぶつ C)歯ぐるまで動くキーホルダー作り D)プログラミングで進め！イチゴの道 E)ドローンデモ飛行	自由参加

### ⑤ 地域の学校に対するインターンシップやものづくりセミナーの企画、実施

北九州イノベーションギャラリーと連携して地域の中学校、高校、高専を対象に以下のインターンシップやセミナー等を企画し、実施した。

NO	事業名	実施日	対象者	参加者数
1	ものづくりセミナー 講師：(株)安川電機、早川理恵	6/26	小倉工業高校 2年生	208名
2	企業訪問ワークショップ 講師：KIGS、大光戸林(株)	8/8	湯川中学校	15名
3	インターンシップ	8/23～27	戸畑工業高校 1年生	4名
4	職場体験	10/11～112	高見中学校	3名

5	実践型インターンシップ	10/16～2/2 (13日間)	北九州工業高等専門学校 4年生	3名
6	職場体験	10/24～25	県立若松高等学校	5名
7	高校生インターンシップ	12/4～14	戸畑工業高校 2年生	4名7日 3名3日
8	高校生インターンシップ	12/1	県立八幡高等学校 新聞部、科学部	5名
9	職場体験	12/5～6	市立枝光台中学校	7名
10	新入生向け体験プログラム	10/30、 11/6、13 12/18、1/8	北九州工業高等専門学校 1年生	各回 約45名 5回
11	北九州キャリア研究会 夢授業	7/13	県立若松高等学校	マイスター 2名
12	北九州キャリア研究会 夢授業	7/17	県立八幡南高等学校	マイスター 3名
13	北九州キャリア研究会 夢授業	10/16	県立北筑高等学校	マイスター 2名
14	北九州キャリア研究会 夢授業	10/20	県立八幡中央高等学校	マイスター 2名

#### ⑥ プログラミング教育のためのワークショップの開発と試行

プログラミング教育を目的としたワークショップを企画、実施し、その結果を踏まえた実施課題等を調査した。

NO	事業名	実施日	参加者数 (見学含む)
1	ロボットプログラミング体験 「自動車コントロール」	8/24～25	26(53)
2	組立&プログラミング 「4足歩行ロボット FAB WALKER」	9/9	15(30)
3	ロボットカーをプログラミングしてみよう	8/18	8(23)

#### (2) ものづくり教育モデルカリキュラムの制作と活用環境の構築

上記(1)①～⑥を通して、北九州ならではのものづくり教育コンテンツに繋がるプログラムを開発した。

### 3) 産業人材育成フォーラム関連企業による教育支援事業の実施

#### (1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業と連携したものづくり教育の実施

「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、フォーラム登録企業等によるものづくり教育・キャリア教育のための出前講座を実施した。

- ・ テーマ：科学する心の啓発(郷土が生んだ偉人・藤田博士の業績を学ぶ)
- ・ 実施場所：竹末小学校 5年生30名、6年生34名
- ・ 日時：12月3日(月)
- ・ 講師：松尾正彦(所属：北九州イノベーションギャラリー/団体：藤田哲也博士記念会)

#### 4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

各事業プログラムの運営体制の拡充、整備と並行して、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化等、事業の地域システム化と持続的発展のための体制づくりを進めた。

##### 1) フォーラム事業の地域システム化に向けた環境づくりの推進

###### (1) フォーラム事業の連携校の拡充

フォーラム事業連携対象教育機関のうち、産業医科大学(環境マネジメント学科)の参画が実現した。未参加校は、早稲田大学のみとなった。

###### (2) フォーラム事業協働企業の会員化の推進

フォーラムの各事業プログラムの進捗を踏まえて、懸案であるフォーラム事業の協働企業の会員化を進めると共に、企業部会の編成に向けた環境づくりを行った。

- ・ フォーラム事業連携校 4校⇒5校(産業医科大学追加)
- ・ フォーラム有志企業会員 20社⇒52社

###### (3) 地方創生戦略等と連携したフォーラム事業の展開

###### ① 「地方創生インターンシップモデル事業」の活用によるフォーラム事業の拡充

北九州市による「地方創生インターンシップモデル事業」を活用し、「実践型(課題解決型・長期)インターンシップ」実施に関する予算拡大(2000千円)を得て、実践型(長期)インターンシップの実施環境調査と事業スキームの検討及び運営マニュアルの作成体制づくりを行った。

###### ② 北九州・下関まなびとぴあ(COC+)と連携した合同説明会の実施。

産業人材育成フォーラムの拡充等をベースにして推進される、COC+事業と連携し、「北九州地域ものづくりベストワン企業合同企業説明会」の共催等、COC+との連携事業を行った。

##### 2) フォーラム協働企業の雇用機会創出支援事業の実施

###### (1) 第1回 産業人材育成フォーラム合同企業説明会の企画・開催

地域中堅・中小企業の雇用環境は非常に厳しい環境にあり、フォーラム事業環境を活かした地元雇用創出のための「北九州地域ものづくりベストワン企業合同説明会」を継続開催した。

- ・ 開催時期：平成30年5月8日(火) 13:00~17:00
- ・ 出展企業：フォーラム事業協働企業 37社
- ・ 参加学生：29名(内定社報告数：6社)
- ・ 共催：北九州・下関まなびとぴあ、北九州地域産業人材育成フォーラム、北九州活性化協議会 他

### 3) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

事業の実施基盤の拡充のために、地域の経済団体・業界団体等でのプロモーションを推進した。

#### (1) 産業人材育成フォーラム実践セミナー・産学交流会の開催

IOT 化促進のためのイノベーション誘発型インターンシップの環境づくりを目的とした I o T スマートファクトリー勉強会としての企画検討をしたが、関係者の調整が出来なかった。

#### (2) 産業人材育成フォーラムのブランディングの実施

フォーラム事業の多様な展開の中で、ステークホルダーの範囲が拡大しており、協働企業の認知向上等も意図した、広報、プロモーションを実施した。

- ① フォーラム事業オフィシャルポスター、チラシの製作、掲示（製作部数：1,000 枚）
- ② ホームページの運用を中心とした WEB を活用したプロモーションの企画・実施
- ③ フォーラム事業関連組織、機関等と連携したプロモーションの実施
- ④ 合同企業説明会を活用した「北九州ものづくりベストワン企業」のブランディング実施

### 4) 各種関連調査及び統計の実施

フォーラム事業の実施評価、及び関連事項のトレーサビリティ確保のために、インターンシップ関係、就職関係等、フォーラム事業に関連する各種調査及び統計を実施した。

#### (1) インターンシップ関係調査・統計の実施

連携校におけるインターンシップの実施環境の整備とフォーラム事業の円滑な運営に資するため、フォーラムの「地域連携型インターンシップ」事業の運営環境を活用し、各種の調査、統計を実施した。

- ・ 地域連携型インターンシップ実施前学生の意向調査(全大学:関係学部全学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学:IS実施学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(IS実施全企業)
- ・ 連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)
- ・ 地域企業におけるインターンシップ実施状況調査(実施企業選抜)
- ・ 学生のための企業発見ツアー参加アンケート(バスツアー参加学生)

#### (2) 就職率関係の調査・統計実施

連携校における学生の就職動向、及び地元雇用促進に対するフォーラム事業の貢献度等を確認するため、フォーラムの事業運営環境を活用して地元就職動向を調査し、実効性あるフォーラム事業の運営と、連携校及び北九州市の地域創生戦略推進のための統計データを作成した。

- ・ 連携大学・高専における地元就職状況調査（全大学・全学部全学科別）
- ・ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査（全大学・全学部）

平成30年度産業人材育成フォーラム 決算

(単位:円)

	項目	H30予算額	H30決算額	決算の増減	内 訳
収 入	<b>1)負担金</b>	<b>7,200,000</b>	<b>7,200,000</b>	<b>0</b>	
	①北九州市	6,200,000	6,200,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	<b>2)会費</b>	<b>2,800,000</b>	<b>2,543,400</b>	<b>▲ 256,600</b>	
	①企業会員	1,200,000	1,020,000	▲ 180,000	企業負担金@30,000×34社
	②大学・高専	1,300,000	1,300,000	0	大学等会費@300,000×4校 @100,000×1校
	③交流会	300,000	223,400	▲ 76,600	MBA懇親会、推進会議交流会
	<b>3)雑収入</b>	<b>0</b>	<b>20,043</b>	<b>20,043</b>	
	①預金利息	0	43	43	
	②企業見学バスツアー補助	0	20,000	20,000	
<b>4)前年度繰越金</b>	<b>400,000</b>	<b>502,243</b>	<b>102,243</b>		
	<b>【収入合計】</b>	<b>10,400,000</b>	<b>10,265,686</b>	<b>▲ 134,314</b>	

	項目	H30予算額	H30決算額	決算の増減	内 訳
支 出	<b>1)人件費</b>	<b>390,000</b>	<b>118,044</b>	<b>▲ 271,956</b>	
	①事務局担当人件費	0	0	0	
	②雑給	390,000	118,044	▲ 271,956	臨時雇用(デ-タ入力等)
	<b>2)謝金</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>	<b>▲ 200,000</b>	
	①専門家謝金	200,000	0	▲ 200,000	
	<b>3)旅費</b>	<b>240,000</b>	<b>162,270</b>	<b>▲ 77,730</b>	
	①近距離旅費等	140,000	162,270	22,270	
	②専門家招聘旅費	100,000	0	▲ 100,000	
	<b>4)委託料</b>	<b>6,780,000</b>	<b>7,599,200</b>	<b>819,200</b>	
	①KTS業務委託	2,960,000	3,024,000	64,000	KTS 業務委託料一式
②KPEC業務委託	3,670,000	4,370,000	700,000	KPEC 業務委託料一式	
③その他業務委託	150,000	205,200	55,200	HP修正料 等	
<b>5)その他経費</b>	<b>2,790,000</b>	<b>1,883,749</b>	<b>▲ 906,251</b>		
①会場借上げ料	550,000	33,550	▲ 516,450	会議室利用料	
②印刷費	600,000	511,655	▲ 88,345	事業案内、企業情報誌 等	
③通信運搬費	170,000	125,321	▲ 44,679	郵送費 等	
④事務消耗品費	220,000	177,033	▲ 42,967	事務用消耗品費 等	
⑤会議費	120,000	63,027	▲ 56,973	会議時飲み物代 等	
⑥交流会費	300,000	223,400	▲ 76,600	交流会経費	
⑦使用料及び賃借料	800,000	722,133	▲ 77,867	工場見学バス代、事務局関係諸費	
⑧雑費	30,000	27,630	▲ 2,370	振込手数料 等	
	<b>【支出合計】</b>	<b>10,400,000</b>	<b>9,763,263</b>	<b>▲ 636,737</b>	
	<b>次年度繰越金</b>	<b>0</b>	<b>502,423</b>	<b>502,423</b>	

別紙 2

北九州の企業人による小学校応援団

**平成30年度事業報告書**

## I 支援事業の推進

### 1 支援事業の充実

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等の充実を図り、継続実施した。

支援対象校は、市内の市立全小学校131校である。出前授業の利用は、申込み学校数が88校、実施校数が82校、実施件数は252件（H29：212件）。

尚、登録テーマ数は123テーマ（H29：120テーマ）。

親学推進については、普及に向けた具体化を図るとともに、PTA活動支援について継続実施した。

#### 1) 出前授業・研修の充実

##### (1)実施テーマの小学校への提示方法の2本化（オーダーメイドによる実施方式の本格化）

これまでは企業から登録のあったテーマを一覧表にして年度初めに学校に提示し、その中から選択してもらっていたが、本年度からはこれに加え、一覧表以外に希望テーマがある場合は申込みを受けて小学校応援団が実施可能な企業を探す等個別対応する旨を年度初めに提示し、学校のニーズに応じた出前授業の実施を図った。

利用校数：6校

実施件数：16テーマ

- ・バスケットボールの指導 2件
- ・職業について 12件
- ・キャリア教育 2件

##### (2)小学校に提示するテーマの記載内容の充実

これまでは企業からの登録内容をそのまま学校に提示していたが、テーマだけでは内容がよくわからないものやテーマの説明内容も各企業でまちまちであったため、企業の協力を得て、学校側にとって内容が理解しやすいよう変更を実施した。

##### (3)申込み期限の弾力的運用

申込期限は、これまでは原則4月末締切とし、2学期以降実施分に限り7月末締切とするという2本立てであったが、本年度からは7月以降実施分については5月末締切とする新しい締切日を加え、申込期限の弾力化を図った。



実施希望時期	申込み期限	備考
5月	4月10日	
6月～年度末	4月末	
7月～年度末	5月末	
9月～年度末	7月末	
9月～年度末	8月以降	随時事務局にて対応

## 2) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにするためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要であり、小学校長との意見交換会を昨年度に引き続き開催した。

実施日：平成30年8月27日（月）15時00分～16時30分

会場：北九州市商工貿易会館5F 501会議室

参加者：教育委員会 2名、校長会長と区会長 8名、

小学校応援団 6名、北九州活性化協議会 2名

## 3) 親学の推進

平成29年3月に親学研究会設置して小学校応援団としての親学のテーマと普及活動について検討を行ってきたが、普及方策については、更に具体的な検討が必要なため、本年度はその点について更に検討を進め、次年度に企業対象の小学校が置かれている環境についてご理解いただく取り組みをすることとなった。

## 4) P T A活動への支援

### (1) P T A活動を支援するための企業内環境づくりの促進

小学校応援団参加協力企業に対して、P T A総会参加をはじめとする従業員のP T A活動への参画を支援する企業内環境づくり（職場理解を進める、特別休暇制度を創設する等）を呼びかけるため、メールとF A Xでご案内を実施した。

### (2) 従業員のP T A総会など各種事業への参加促進

関係団体（小学校応援団、P T A協議会、小学校校長会）連名でP T A総会への参加について、小学校応援団参加協力企業を通じて保護者である従業員に、またすべての小学校を通じて直接保護者に呼びかけるため、全学校に案内文を配布した。また、学校開放週間についても参加協力企業を通じて保護者である従業員に参加を呼びかけるため、メールとF A Xでご案内を実施した。

## 5) 小学校に対する小学校応援団事業のPRの推進

新年度当初に、各小学校に対して、出前授業や研修のテーマとその説明、利用実績の周知を行うとともに、利用した小学校からの感想等利用者の生の声と効果を伝えることによって小学校応援団事業のPRと利用の促進を図ることにより、申込み校数の増加につながった。

## 2 広報の充実

小学校応援団の取組みに対する企業等の理解を深め、協力の輪を広げるため、パンフレット等による広報活動を行うとともに、ホームページにおける活動紹介の充実を図った。また、適宜、小学校応援団の活動状況を報道機関に情報提供を行った。

- ・西日本新聞 (2018年8月7日)
- ・朝日新聞 (2018年12月19日)
- ・朝日放送 (2018年9月19日)
- ・ケーブルテレビ (2018年9月19日)

## 3 小学校応援団申込みシステムの見直し

支援事業の申込みから実施、報告に至るまで、各学校と事務局が情報を常に共有し支援事業の活用とその運営管理を円滑・効率的に行うことができるよう、平成27年度からパソコンによるシステムを開設した。

ただ、これまでの学校側とのやり取りの中で、例えば手続きの進捗状況を学校側がシステムに入力していないことから事務局が進捗状況を把握できないといった事例なども見られたため、使う側にとってシステムの使い方、手順等がもっと分かりやすくなり、使い勝手がよいシステムとなるよう必要な改良を行った。改良は、以下の通りである。

- ・入力時に、申込みから出前授業実施及び報告までの流れの図が表示され、次に何をしなければいけないのか一目瞭然にわかるように改良。
- ・入力ミスがある場合に、修正の案内が表示され、次の操作をスムーズに行うことができるように改良。

## II 支援体制の充実

### 1 参加協力企業等の拡大

引き続き関係団体の協力を得て、参加協力企業等の拡大に取り組み、449社（H29 439社）が加盟中である。

### 2 学校担当コーディネーターによる支援事業のサポートの充実

小学校をサポートし、事務局と小学校との間をつなぐ架け橋として、主に支援事業の周知と進捗状況の管理等を行うコーディネーターの協力を得て、支援事業のサポートの充実を図った。

### 3 三者調整会議の開催

小学校応援団の支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整等を行うため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、北九州市教育委員会及び北九州活性化協議会との三者調整会議を開催し、事業の円滑な推進を図った。

【開催日】

・平成30年6月27日

**北九州の企業人による小学校応援団 平成30年度決算**  
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

【収入】

単位：千円

項目	当初予算	決算額	説明
負担金	7,500	7,500	<負担金拠出額> 北九州市 5,500 北九州活性化協議会 2,000
利息			* 22円
計	7,500	7,500	

【支出】

項目	当初予算	決算額	説明
支援事業費	500	415	講師謝金等
コーディネーター業務費	1,350	1,336	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	650	805	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システム充実等
企画管理運営費	4,100	4,117	事務局人件費等
事務局経費	900	827	通信運搬費、交通費、消耗品費、事務室等使用経費等
計	7,500	7,500	

北九州イノベーションギャラリー  
指定管理者事業

**平成 30 年度事業報告書**

## I. 事業概要

---

北九州イノベーションギャラリー(以下「KIGS」)の施設管理・運営については、公益財団法人北九州活性化協議会(以下「KPEC」)が第三期指定管理者として、平成27年4月から単独にて5年間の施設管理・運営を受託。その4年目となる平成30年度については、下記の基本方針のもと各種事業を精力的に展開すると共に、官営八幡製鐵所の世界文化遺産登録の紹介とあわせて、当地固有の歴史的風土と、そこに蓄積してきた「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、企画展の開催や市民セミナー・見学ツアー等様々なイベントを意欲的に実施した。

### ◆地域において培われた産業技術とその心を継承する。

日本が先進工業国へと成長する過程で、北九州は数多くの技術革新を経験し、技術・技能やこれらを支える経営・管理ノウハウなど膨大な知見を蓄積してきた。これらの財産を可能な限り調査し、保存・継承に努める。また、世界遺産を始めとする産業遺産の展示等を通して日本の近代化を支えたまち「北九州」への誇りとものづくりへの興味につなげる。

### ◆イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。

優秀な技術者、熟練技能者、デザイナーおよび大学の研究者などと連携し、技術動向やデザインなどの情報を提供するとともに、産学官の技術交流の場を提供することで、産業技術に対して幅広い視野を有し、知識融合等によるイノベーションを推進しうる人材の養成に取り組む。また、社会人再教育として、実践に必要な幅広い基礎知識の強化に取り組む。

### ◆次世代イノベーターを育成する。

産業技術や基礎科学の重要性について、青少年の理解を高め、技術やデザインへの探究心を育む。

### ◆技術者OB・OGの経験を活かす。

北九州市には、技術革新に関わった技術者が多く在住している。彼らの経験を活用し、技術の知と心の継承を行う。

### ◆多様なネットワークを構築する。

地域の企業および大学等高等教育機関のみならず、内外の博物館や研究機関と連携することで、高度な専門性を確保しつつ、サービスの内容や質の向上を図る。

### ◆固有の価値・魅力を発信する。

「イノベーションをテーマにした国内唯一の施設」としての当施設の独自性、魅力を高め、それを内外に発信していく。

## 【主な活動概況】

### 1 教育普及事業

主要講座であるイノベーションフォーラム(年1回)、技術革新セミナー(年2回)、デザインセミナー(年2回)は、若手技術者等新たな顧客層を開拓するため、時代の流れに即したものをテーマに設定し著名な講師を招いて開催した。また、これらの企画にあたっては、国内最先端技術を有する企業の協力やクリエイターにも参画頂き、最先端のイノベーションに関する情報を提供

し、その結果一歩踏み込んだ理解と意識改革の醸成をすることが出来た。

世界遺産登録関係では、世界遺産登録にともなう旅行会社の旅行プランへの組み入れ提案などの積極的な働き掛けを継続して行った。

技術革新セミナーでは、本年度は現在大きな流れとなっている「AI & ロボット」の分野に関するテーマを取り上げ、「ロボットとイノベーション」というテーマで開催し、100名近い参加者を得た。

本年度もKIGS デジタル工房では、企画展連動ミニ体験においてもデジタル工房で製作した部材を利用したワークショップを積極的に実施し、各種プログラムを推進した。

なお、これまでのニーズに合わせたプログラムや地道な誘致活動に加えて、ものづくり教室やものづくりミニ体験の開催頻度を大幅に増やしたこともあり、年間教育プログラム参加人数が前年度を大幅に上回り、本年度も過去最高値を記録した。

## 2 展示事業

春には、「～遊ぶ・学ぶ・作る～くらしを包むパッケージ展」を開催した。夏には、「机の上のイノベーション たのしい文房具の世界」を開催した。家族で楽しみながら体験出来る仕立てとし大好評を博した。秋には、「光のふしぎ展2」を開催した。プロジェクションマッピングやセンサーといった最新のテクノロジーを活用した多彩なアイテムを展示したことで小さなお子さんから主婦、カップルにも話題を呼び、大好評を博した。冬には、特別展として昨年度に引き続き「平成30年度未来を見つめる高校生の作品展」、企画展として「長崎街道（シュガーロード）と北九州の路地裏」を開催した。

夏以降の企画展は、観覧者も多く、概ね大好評であった。

## 3 調査研究事業

平成30年度の調査研究は、九州工業大学の趙孟祐教授と佐久間治教授に委託して2件の調査研究を行った。「北九州における宇宙環境技術の歴史と発展」については、宇宙環境技術ラボラトリーの施設長でもある趙孟祐教授にお願いした。また、「北九州における近現代建築の地域資源としての意味と評価」については佐久間治教授にお願いし、今年度の活用編につながる基礎編を策定して頂いた。

国立科学博物館との共同研究においては、「クロック技術の系統化調査」は株式会社精工舎に入社しクロック技術本部長や取締役を経験した鈴木哲郎様が執筆された。

## 4 図書・映像の収集及び公開、産業映像の制作

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図っている他、新着本のホームページでの公開やメールマガジンで紹介するなどライブラリーの利用促進を継続している。さらに、ライブラリー入口にはイベントに合わせて来館者の興味を引く図書を配架している。

また、産業映像の収集について、市販映像5作品を購入した。

産業映像は、一般市民にも分かり易い技術革新物語として「輝くキタキュウのプロダクツ1～北九州オンリーワン企業物語（約30分）」に続いて、北九州市が認定した4社を「輝くキタキュウのプロダクツ2～北九州オンリーワン企業物語」（35分）として制作した。昨年に続いて日本語版を基に、英語、中国語、韓国語編を編集した。

産業映像の公開は、平成29年度に製作した「輝くキタキュウのプロダクツ1～北九州オンリ

「ワン企業物語」(約 30 分)を 7 月の市民セミナー (KME 共催) で制作披露を行った。PR 活動によるプレスリリースを配信し、NHK の夜のニュースで 4 社社長が紹介され、当館館長のインタビューも放送された。また、TEPIA 先端技術館に寄贈し、同館のビデオライブラリーに登録されインターネット経由で一般視聴できるようにすると共に、本年度から KIGS ホームページトップの YouTube で配信した。

また、KIGS ホームページの「ものづくり企業」に北九州オンリーワンに認定企業の 5 社が紹介されていなかったことから、陽和、接産ヒート、桑原電工、タック技研、シノハラ製作所の 5 社の取材を行い公開した。

## 5 貸出スペースの稼働アップや芝生広場の有効利用

“開かれた館”を目指し、多目的かつ有効なスペース提供を通じ、利用者のサービス向上に努めた。

プレゼンテーションスタジオおよび工房利用については、地道に拡大を図った。

「世界一行きたい科学広場」や「KIGS 春のわくわくワークショップまつり」の体験型集客イベントを実施することで、芝生広場の有効利用を図るとともに、来館者の誘引に引き続き努めた。

デジタル工房では、安価に材料等が準備できるため、本年度も KIGS オリジナルの内容でのものづくり教室やワークショップを多数回開催し、夏休み中の小学生中心に多くの利用者を集めることができた。今年度からは、成人女性をターゲットにしたイベントにも取り組んで好評であった。

### 【成果】

上記の積極的事業展開、活発な広報・集客活動の結果、計画した数値目標を大幅に超え達成できた。全項目、過去最高記録を更新した。

#### ◆計画数値目標の達成状況

入館者数	計画 68,000名	実績 90,523名	(計画比 133.1%)
企画展観覧者数	計画 20,000名	実績 46,287名	(計画比 231.4%)
教育プログラム参加者数	計画 13,500名	実績 27,940名	(計画比 207.0%)

### 【利用者の声に見る主要事業の評価】

当館の運営及び各種事業展開にあたっては、当施設が公共施設としての役割を果たすため、幅広くアンケートを収集し、それらの分析結果を反映することにより、公正公平な満足感の提供を心がける必要がある。本年度収集した利用者の主な声を抜粋・要約のうえ、総括した。

特に今年度は、来館者数等が大幅に増加したのに対して、アンケートの回収率が非常に低いため、満足度については、厳しめの傾向にある。また、利用者の声については、ご意見や不満に対して真摯に取り組む必要があると認識している。

#### ◆施設全般アンケート

利用者の満足度は、96.5%と目標の 86%を上回っている。

「駐車場があればよい」という声が散見される。お問い合わせや工作教室への申し込みの際に、有料駐車場を案内するようにしている。案内板や横断幕等を見やすいものにリニューアルしたり、掲示場所を増やした結果、「行き方が分からない」といった声は大幅に減少した。また、本年度も、



「このイノベーションギャラリーを知らせるためにアピールしたらいいと思います」という意見もいただいている。

#### ◆教育普及プログラム参加者アンケート

利用者の満足度は、96.0%と目標の97%にわずかに未達であった。

本年度も全般的に好評で、マイナス評価や苦情は見当らなかった。

##### (1)各種講座

技術革新セミナー、デザインセミナー、市民セミナーなどは、企画・対応について概ね好評であった。

①時間が長かった、短かった ②スクリーンの表示が見にくかった ③資料を配布して欲しい等を含め、対応できる声については改善している。

##### (2)ワークショップ、各種イベント

親子工作教室、イノベーションツアー、サマースクールなどの参加型イベントは、企画・運営・料金・対応について概ね好評であり、それぞれリピーターも多い。マンネリ化しないよう、新たにテーマなどを工夫し実施した。本年度の後半は、企画展を開催していない閑散期の土日にもスケジュールし、開催回数を増加させている。

3D プリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機械をメインに活用したワークショップも、非常に好評である。一方、人気であるが故に、予約がすぐに埋まってしまい「もっと参加枠を増やしてほしい」という声を多数いただいている。応募方法等もホームページからの抽選応募等の改善に取り組んでおり、徐々に効果が出ている。

3D プリンタとレーザーカッターの機材講習会と個人利用を推進している。現在レーザーカッターは78名、3Dプリンタは26名が受講し会員となっている。

##### (3)団体向けプログラム

また、工房における金属加工体験は社会科見学や修学旅行等の学校団体に好評であり、学校設備ではできない体験ができることへの感謝の言葉をいただいている。

スペースワールド閉園による悪影響は現在のところ見られない。

#### ◆企画展観覧者アンケート

利用者の満足度は、83.2%と目標の87%を達成できなかった。

観覧者傾向については、総観覧者数に対してアンケート回収率が3%にとどまっており、把握分析が有効なレベルではない。

声としては、

- ・観覧料金については、「高い」という声と「安い」という声が入り混じっており、感じ方の違いということで、このまま見ていく。
- ・体験型や簡単な工作を取り入れた展示に対しては、引き続き高い評価をいただいている。

## II. 教育普及事業

教育プログラムへの参加者数は目標 13,500 人に対して実績が 27,940 人(目標達成率 207%)となり、昨年の開館以来過去最高人数 18,852 人を大幅に上回る参加数を達成した。目標を大幅に超えることができた要因として①企画展観覧者数の大幅な増加により企画展関連教育イベント参加者、ミニ体験参加者が大幅に増加したこと、②これまで年 2 回だったビッグイベントを 3 回に増やしたこと(ミニ体験フェアをお年玉プレゼントとして開催)、③デジタル工房機能を活用した子供、女性向けの魅力あるプログラムを開発し、KIGS の新たなファン層を開拓したことなどが挙げられる。そのうち、①の企画展観覧者数の増加によるミニ体験数の増加は約 1900 名。②のビッグイベントとして開催したミニ体験フェア参加者は 3,113 名となり、これは純増である。③のデジタル工房関連プログラムでは 5,855 名の参加者数を記録、昨年度より 2,750 名増加している。デジタル工房会員数は昨年より 39 名増えて 112 名になった。内訳は 3D プリンタ 35 名、レーザーカッター 96 名(重複会員あり)となり、会員数は安定して増加している。

また、当館に北九州マイスターが常駐する体制を構築し、北九州マイスター技能伝承クラブとの技能伝承を目的とした協業活動も継続実施しており、将来の技能者たる子供たちへの教育活動を展開した。

### 1 フォーラム、企画展連動講話

#### (1)イノベーションフォーラム

開催日時	内容	講師	参加人数
1月25日 15:00～17:00	テーマ「ロボットとイノベーション」 報告「北九州市における介護ロボット開発・導入の現状」 「ロボットとイノベーション ～その歴史と未来」	善甫 英治／(公財)北九州産業学術推進機構 国家戦略特区ライン 介護ロボット技術グループ長 澤 俊裕 氏／(一社)日本ロボット学会 会長、 (株)安川電機顧問	99名

計 99 名

#### (2)企画展連動講演会

開催日時	内容	講師	参加人数
6月2日 13:30～15:00	「風呂敷の知識から暮らしに役立つ包み方まで」	久保村正高／宮井株式会社	25名
7月28日 15:30～16:30	「進化する日本の文房具の楽しみ方」	高畑 正幸／文具王	88名
12月8日 13:00～14:40	「テクノロジー×アートで何が見えますか？」	森脇裕之／多摩美術大学 美術学部 情報デザイン学科 教授	33名
3月30日 13:30～15:00	「童画家 畑たいむの路地裏トーク」	田中時彦／北九州市漫画ミュージアム 館長	53名

計 199 名

### 2 講座、セミナー、技能講習など

#### (1)技術革新セミナー

開催日時	内容	講師	参加人数
5月19日 13:00～15:00	「科学の歴史①～力学はどのようにして創られたか」	有賀 暢迪／国立科学博物館理学研究部研究員 博士(文学)	64名
12月1日 13:00～15:00	「科学の歴史②～明治日本、西洋の科学と出会う」	有賀 暢迪／国立科学博物館理学研究部研究員 博士(文学)	56名

計 120 名

## (2)デザインセミナー

開催日時	内容	講師	参加人数
12月1日 13:30～15:30	「パーツバイキングでデザインする～クリスマス・タペストリーの創作」参加費:1300円 *小学4年生以上(小学生は保護者同伴)	加来ますみ/北九州クラフト協会 会長	9名
2月17日 12:30～14:30 15:00～17:00	指で描く!「カラフルチョークアート教室」 参加費:1500円 *一部:小学3～6年生(保護者同伴) 二部:中学生～一般	田島奈保/チョーク看板王(BSテレビ東京・ テレビチャンピオン極)	24名

計 33名

## (3)KIGS市民セミナー

開催日時	内容	講師	参加人数
第1回 7月12日 14:40～15:45	市民セミナー①「産業技術記録映像上映会」 ① 北九州オンリーワン企業物語 ② 若戸大橋～我が国初の長大吊橋建設への道	—	69名
第2回 7月14日 13:00～14:30	市民セミナー② 「世界初!赤紫蘇コスメ 芦屋町の開発者が語る美肌術」	金井誠一氏/パルセイユ株式会社 代 表取締役社長	36名

計 105名

## (4)ものづくりセミナー

開催日時	内容	講師	参加人数
第1回 6月26日 11:20～12:10	出前講座(小倉工業高等学校) 「安全作業の基本～自校での実習・企業での実習に向けて」	早川理恵/株安川電機	208名
第2回 9月28日 10:00～12:00	出前講座(穴生学舎) 現代の産業とものづくり「先人に学ぶプロフェッショナル」	鹿毛 浩之/KIGS 館長	32名

計 240名

## (5)調査研究報告会

開催日時	内容	講師	参加人数
第1回 5月12日 13:00～15:00	「北九州におけるレベル計測技術の 歴史と発展」	山田 雅彦/株式会社マツシマ メジャテック 常務取締役	60名
第2回 6月20日 13:00～14:30	出前講座(久留米ソフトリサーチパーク) 「天然及び合成ゴムの技術的歴史と発展」	西村 伸/九州大学 大学院 工学研究院 教授	25名
第3回 8月25日 13:00～15:00	「北九州における鍛造技術の歴史と発展」	宮田守次/ミヤタハイメック品質技術研究所代表 安西敏雄/株式会社高田工業所 理事・ 技術本部副本部長	81名
第4回 11月17日 13:00～15:00	「嗅覚センサーと匂い応用研究の 歴史と発展」	林 健司/九州大学 教授	78名
第5回 2月16日 13:00～15:00	「モーターコア打抜き金型の系統化調査」	尾畑 隆一/株式会社三井ハイテック 国立科学博物館 産業技術史 資料情報センター 前主任調査員	113名

計 357名

## (6)共催イベント(ワークショップ)

開催日	内容	共催団体名	参加人数
4月21日 9:30～16:30	高齢社会デザインシンポジウム in 北九州	北九州総合デザイナー協会(KDA)	45名
毎月1回土曜 /計9回	共催シンポジウム 共同研究発表、例会	公益社団法人日本技術士会北九州支部 CPD	455名
7月12日 10:00～12:00	KME セミナー「KITAの活動紹介」～北九州市 地域企業と海外のつながり～	小田原 博/KITA 専務理事	42名
9月29日 13:30～14:30	やはたアトマンス2018～パレットの樹 「不思議な音の実験室 I」	小田 雄二/元 学校教員	37名

10月13日 14:00～16:00	やはたアーツ2018～パレットの樹 「ブックトーク&樹脂粘土でつくるミニチュアワン プレートの朝ごはん」	八幡東図書館	13名
10月27日 13:30～15:00	やはたアーツ2018～パレットの樹 「翻訳の世界はワンダーランド」	富原まさ江／出版翻訳者	14名
11月1・8・15・ 29日、12月6 日	北九州市民カレッジ「見て、聞いて、学ぶ『北九 州の達人』Ⅱ」（計5回）	北九州市生涯学習総合センター	73名
11月22日 14:00～17:00	「チーム北九州でつくる」持続可能な社会」	公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)	81名

計 760名

### 3 各種ワークショップ、イベント

#### (1)KIGS(研究)倶楽部

開催月	回数	内容	講師	参加人数
4月～翌年3月	第1・3・5土曜 日計25回	「帆船模型倶楽部セーリングシップ」 一般社会人による、正確縮小帆船模型の製作活動	会員活動	631名
8月	1回	「低炭素社会システム研究会」 一般社会人による、低炭素社会システムの研究、発表会	会員活動	5名

計 636名

#### (2)ジュニア向け工作教室

開催日	内容	講師	参加人数
5月5日 10:00～12:00 13:30～15:30	「オリジナル LED フォトスタンド作り」 参加費:500円 *小学生親子	福岡県立小倉工業高等学校 無線部	51名
6月16日 10:00～12:00 14:00～16:00	「電線で作るオリジナルいらいら棒」 参加費:300円 *小学生親子	北九州ものづくり光継会	23名
6月16日 10:00～12:00 14:00～16:00	「リサイクル素材で作るLEDランタン」 参加費:300円 *小学生親子	北九州ものづくり光継会	17名
6月16日 10:00～12:00 14:00～16:00	「本物の鉄道レールで作るブックエンド」 参加費:300円 *小学生親子	北九州ものづくり光継会	21名
6月23日 10:00～12:00 13:30～15:30	「回路で遊ぼう！LEDルーレット」 参加費:1000円 *小学4～6年生親子	九州工業大学衛星開発プロジェクト メンバー	52名
9月17日 10:00～12:00 13:30～15:30	「回路で遊ぼう！電子スズムシ」 参加費:1000円 *小学4～6年生親子	九州工業大学衛星開発プロジェクト メンバー	48名
9月29日 9:30～15:00	電子工作&実験「えんぴつピアノ・RCドレミ」 参加費:2000円 *小学4年生～一般(小学生保護者同伴)	ヒューマンアカデミーキッズサイエンス 教室	15名
12月19日 14:00～15:30	(館外)尾倉市民センター 「学んでつくり！ふりふり発電棒」	KIGS スタッフ	13名
2月2日 10:30～12:00 14:00～15:30	実験&工作「つかめる水とオイルタイマー作り」 *小学生親子	北九州高等専門学校4年生	19名

計 259名

#### (3)企画展連動イベント・ワークショップ

##### ①春企画展「くらしを包むパッケージ展」

開催日	内容	講師	参加人数
5月19日 10:30～12:00	「プチ段ボール恐竜づくり」参加費:100円 *小学生親子	白石正雄／ダンピース工房	38名
5月19日 13:30～15:00	「プチ段ボール恐竜づくり」 参加費:100円 *小学生親子	白石正雄／ダンピース工房	27名
5月19日 11:00～14:00	「移動式トラック工場でのいたん紙器づくり」 芝生広場 参 加費:500円 *小学生以下親子	大石産業株式会社	158名

計 223名

②夏企画展 机の上のイノベーション「たのしい文房具の世界展」

開催日	内容	講師	参加人数
7月29日 13:00～14:00 15:00～16:00	「マンガの描き方講座」 参加費:無料 *小学3年生～中学生	田中時彦/北九州市漫画ミュージアム館長	38名
8月4日 12:00～14:00 15:00～17:00	「最新型 OSMO マシンで作る☆わたしスタンプ」 参加費:700円 *小学生	シヤチハタ株式会社	98名
8月4日 14:00～14:45	「八幡中央高校書道部創作実演&書道体験会」 参加費:無料 *小中学生 (創作実演127名※教育プログラムカウント外)	八幡中央高校書道部	19名
8月5日 11:30～12:15 13:30～14:15	「布描きクレヨンで MY エコバックをつくろう」 参加費:無料 *小学3年生～6年生	KIGS スタッフ 協力:ぺんてる株式会社	37名
8月11日 11:30～12:15 13:30～14:15	「かわいいミニ封筒をつくろう」 参加費:無料 *小学1年生～3年生	株式会社マルアイ	59名
8月12日 11:30～12:15 13:30～14:15	「ガリ版印刷体験会」 参加費:無料 *小学3年生～6年生	ガリ版研究会	75名
8月25日 11:30～12:00 13:30～14:00	「MY グラスデコシールをつくろう」 参加費:無料 *小学1年生～3年生	KIGS スタッフ 協力:ヤマト株式会社	83名
8月26日 11:30～12:15 13:30～14:15	「わたしだけのデコ Cam ノートをつくろう」 参加費:無料 *小学3年生～6年生	コクヨ株式会社	69名
9月17日 13:00～14:00 15:00～16:00	「マンガの描き方講座」 参加費:無料 *小学3年生～中学生	田中時彦/北九州市漫画ミュージアム館長	40名

計 518名

③秋企画展「光のふしぎ展2」

開催日	内容	講師	参加人数
12月15日 13:30～15:00	「実験工作 光の七不思議」 参加費:無料 *小学生(保護者同伴)	北九州工業高等専門学校学生	50名
12月22日 11:00～12:00 13:30～14:30	「万華鏡作り」参加費:500円 *小学生～高校生(小学生保護者同伴)	林 和子/万華鏡作家	19名
12月23日 11:00～12:00 13:30～14:30	「万華鏡作り」参加費:500円 *小学生～高校生(小学生保護者同伴)	林 和子/万華鏡作家	22名

計 91名

④冬企画展「長崎街道(シュガーロード)と北九州の路地裏」

開催日	内容	講師	参加人数
3月16日 13:00～13:30 14:00～14:30	「東田わいわい広場～平成ファナル!」 「演劇風大型紙芝居「将軍様と白象くん」	白象座	47名

計 47名

(4)デジタルものづくり教室

開催日	内容	講師	参加人数
6月9日 10:00～12:00 14:00～16:00	「レーザーカッターで彫刻。マイイラスト壁掛け時計を作ろう!」参加費 1500円*小学生親子～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	20名
6月10日 10:00～12:00 14:00～16:00	「レーザーカッターで彫刻。マイイラスト壁掛け時計を作ろう!」参加費 1500円*小学生親子～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	15名
7月14日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「くるくるコーヒーカーップを作ろう!」 参加費 500円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	32名
7月15日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「くるくるコーヒーカーップを作ろう!」 参加費 500円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	37名

7月28日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	38 名
7月29日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	35 名
7月30日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	34 名
8月4日 13:00～16:00	(館外) 福智町図書館・歴史資料館ふくちのち 科楽フェスティバル「ころころゴム動力車を作ろう！」 参加費:無料*小学生～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	188 名
8月11日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	33 名
8月12日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「観覧車貯金箱を作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	32 名
8月24日 10:00～16:00	(館外) 北九州ゆめみらいワーク2018 「まきまきタッセルキーホルダー作り」 参加費:無料*幼児～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	151 名
8月25日 10:00～16:00	(館外) 北九州ゆめみらいワーク2018 「まきまきタッセルキーホルダー作り」 参加費:無料*幼児～一般	KIGS スタッフ、デジタル工房	197 名
10月14日 9:30～12:00 13:30～16:00	「アクリルアクセサリー講座～レーザーカット・曲げ・染め～」 参加費 1000 円*中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	15 名
10月21日 10:00～12:00	出前/八幡東図書館 「ハンドル回すと上下に動く！からくり工作」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	20 名
10月27日 10:00～16:00	出前/水巻町みどりんぱーく 水巻町コスモスまつり 「コスモスカざぐるま」 参加費 無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	336 名
10月28日 10:00～16:00	出前/水巻町みどりんぱーく 水巻町コスモスまつり 「コスモスカざぐるま」 参加費 無料	KIGS スタッフ、デジタル工房	312 名
10月28日 9:30～12:00 13:30～16:00	「アクリルアクセサリー講座～レーザーカット・曲げ・染め～」 参加費 1000 円*中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	12 名
11月11日 10:00～12:00 14:00～16:00	「カラフル寄木でつくるオリジナルティッシュ箱」 参加費 500 円*午前:小学生親子 午後:中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	11 名
11月18日 10:00～12:00 14:00～16:00	「カラフル寄木でつくるオリジナルティッシュ箱」 参加費 500 円*午前:小学生親子 午後:中学生以上	KIGS スタッフ、デジタル工房	9 名
11月23日 9:30～12:00 13:30～16:00	「電子工作でピカピカ光るオリジナルイラストツリーを作ろう」 参加費 1500 円*小学生3年生～中学生(小学生保護者同伴)	ヒューマンアカデミーロボット教室× KIGSデジタル工房	33 名
12月8日 10:00～11:30	「親子で作る冬のフェルトガーランド」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	13 名
12月9日 10:00～11:30 14:00～15:30	「親子で作る冬のフェルトガーランド」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	30 名
12月16日 10:00～11:00 13:00～14:00 15:00～16:00	「スタンプとステンシルでかわいい年賀状づくり」 参加費 300 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	27 名
12月22日 11:00～15:30	(館外) 福智町図書館・歴史資料館 「オリジナルペン&メガネスタンドを作ろう」参加費 200 円* 小学生～一般(小学校低学年保護者同伴)	KIGS スタッフ、デジタル工房	20 名
2月23日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「ころころコースターを作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	38 名
2月24日 10:00～12:00 14:00～16:00	歯車工作「ころころコースターを作ろう！」 参加費 500 円*小学生親子	KIGS スタッフ、デジタル工房	41 名
3月9日 10:00～15:00	春のわくわくワークショップまつり 2019	KIGS スタッフ、デジタル工房	4,126 名

計 5,855 名

(5)プログラミング教室

8月24日 10:00～12:00 14:00～16:00	ロボットプログラミング体験「自動車コントロール」 参加費 1000 円*小学 3～6年生親子	株式会社アドバン	28 名
8月25日 10:00～12:00 14:00～16:00	ロボットプログラミング体験「自動車コントロール」 参加費 1000 円*小学 3～6年生親子	株式会社アドバン	25 名
9月9日 9:30～12:30 13:30～16:30	「4足歩行ロボット FAB WALKER」組立&プログラミング 参加費 5200 円*小学 3～6年生親子	株式会社イーケイジャパン	30 名

計 83 名

(6)東田サマースクール 2018 \*参加人数は、KIGS 利用日のみの合計

開催日	内容	参加人数
第1期 7月24日～27日	1 日目 北九州イノベーションギャラリー ・工房工作、企画展、映像、企画展、高炉	延べ 47 名
第2期 7月31日～3日	2 日目 環境ミュージアム ……展示見学・エコ工作教室等※教育Pカウント外 3 日目 いのちのたび博物館……化石レプリカ作成・博物館見学等※教育Pカウント外	延べ 47 名
第3期 8月7日～10日	4 日目 北九州イノベーションギャラリー ・デジタル工作、修了式	延べ 49 名

計 143 名

(7)東田たたらプロジェクト 2018(市民たたら)

今回の操業は3釜で実施した。また、3月17日の製品化イベントでは、「マーチンググロッケン」を製作。作業工程や手作業を充実させたアイテムを考案した。

開催日時	内容	詳細	参加人数
11月25日 8:00～16:30	本操業(東田第一高炉にて)	「親子製鉄本操業体験」 (セラ製造量、赤班:4.06kg/ 黄班:6.4kg/緑班:4.65 kg)	37 名
3月18日 13:00～16:00	製品化(工房にて)	「マーチンググロッケン作り」	56 名

計 93 名

(8)イノベーション見学ツアー

普段見学出来ない工場や体験型ツアー、史跡を巡る見学ツアーを催行。タイガートラベルのバスを利用した。

開催日	内容	参加人数
第1回 6月22日	「普段は見られないパッケージ工場見学バスツアー」グランド印刷、めんべい、大石産業、企画展。 対象:一般 参加費:4,000 円	42 名
第2回 8月28日	「親子で楽しく学ぼう!唐揚げ工場見学とパン職人に学ぶパン作り体験ツアー」株式会社唐十、クラウン製パン株式会社桃園店。 対象:小学 4～6 年生親子 参加費:大人 2,000 円、子ども 1,000 円。	31 名
第3回 10月13日	「佐賀平野の水と大地の歴史にふれる 佐賀史跡訪問バスツアー」。 肥前国府跡、石井樋、東名遺跡、はがくれみらい館、旧古賀銀行、横武城跡。対象:一般 参加費:5,000 円	40 名
第4回 3月23日	館長と行くバスツアー 街道さんぽ「木屋瀬宿～赤間宿～畦町宿」 対象:一般 参加費:4,000 円 参加費 4,000 円	27 名

計 140 名

(9)中学生向けワークショップ

①中学生企業訪問ワークショップ

部活を基盤に声かけし、夏休みに実施。館に縁遠い中学生普及テコ入れの一環として実施した。

開催日	内容	参加校	参加人数
8月8日	「大光炉材」の企業工場見学、KIGS 企画展、工作体験実施	北九州市立湯川中学校	15 名

②中学生インターンシップ

中学生向けに接客練習や業務体験を実施。

開催日	参加校	内容	参加人数
10月11日 ～12日	北九州市立高見中学校	1日目 10:00～15:30 施設紹介、接客練習、業務体験 2日目 10:00～15:30 業務体験、団体対応、図書作業等 *3名×2日間実施	6名
12月5日 ～6日	北九州市立枝光台中学校	1日目 10:00～15:15 施設紹介、館内見学、接客対応等 2日目 10:00～15:15 図書作業、接客対応等 *7名×2日間実施	14名

計 20名

(10)高校生向けインターンシップ

普通高校にはマナー研修や業務体験を行い、工業高校には旋盤等の基本技能を実際の製品作りでどう活用するか、実践的な作業を多数経験できるようにした。

開催日	参加校	内容	参加人数
8月23日～ 25日、27日	福岡県立戸畑工業高等学校1年	安全講習、技能実習、製品作り 旋盤などの実技を主体にマイスターも講師に交え 実践的な作業体験 *4名×4日間実施	16名
10月24日 ～25日	福岡県立若松高等学校	1日目 9:00～16:00 施設紹介、接客練習、業務体験、団体対 応5名 2日目 8:30～15:30 オープン準備、業務体験、団体対 応、工作準備5名 *5名×2日間	10名
12月4日～ 14日	福岡県立戸畑工業高等学校2年生	1週目 9:00～16:00 イベント対応、来館者対応 2週目 9:00～16:00 工房作業 *4名×10日間実施(3日間1名欠席)	37名

計 63名

(11)「世界一行きたい科学広場 in 北九州 2018」

東田3館および市内中学校、高校、近隣との連携イベント \*全館・芝生広場にて実施(他館来場者は除く)

開催日	内容	共催団体名	参加人数
8月18日	①「かたちのひみつ～三角形だけで作る立体工作」小倉工業高等学校 11:00～12:00 多目的スペース <u>34名</u> (有料数:9名) 参加費:100円 小学1・2年生親子 ②「モーターのひみつ～キット工作にチャレンジ」小倉工業高等学校 14:00～15:00 多目的スペース <u>27名</u> (有料数:10名) 参加費:500円 小学3・4年生親子 ③「プロとデザインする! MY置時計」北九州総合デザイナー協会(KDA) 10:00～15:00 ワークスタジオB <u>14名</u> (有料数:14名) 参加費:1500円 小学4～6年生親子 ④「ゴム動力で動くクラシックカーの模型」セーリングシップ 14:00～15:30 デジタル工房 <u>23名</u> (有料数:10名) 参加費:800円 小学4～6年生親子 ⑤「理科科学実験レポート 光の七不思議」北九州工業高等専門学校 11:00～11:45 工房 <u>31名</u> (体験者:11名) 小学4～6年生親子 ⑥「理科科学実験レポート 放射線と放射能」北九州工業高等専門学校 14:00～14:45 工房 <u>25名</u> (体験者:9名) 小学4～6年生親子 ⑦「カニさんをプログラミングして迷路のゴールをめざせ」株式会社ロジコモン 10:30～11:30 ラウンジ <u>27名</u> (体験者:9名) 小学1～3年生親子 ⑧「ロボットカーをプログラミングしてみよう」株式会社ロジコモン14:30～15:30 ラウンジ <u>23名</u> (体験者:8名) 小学4～6年生親子 ⑨「エジリン博士&つつこみ助手～じっけんマジック」劇団黄色い自転車 13:00～14:00 Pスタ <u>105名</u> 小学生親子 ⑩(館外)イオンモール八幡東サイエンスショー「サイエンスショー(防災科学)～みんなの人気者 Dr.ナダレンジャー来る!」13:30～14:30、15:00～16:00 納口 恭明/理学博士 イオンモール八幡東「ひまわりの広場」 <u>316名</u>	小倉工業高等学校 北九州総合デザイナー協会(KDA) 帆船模型倶楽部セーリングシップ 北九州工業高等専門学校 株式会社ロジコモン 劇団黄色い自転車 納口 恭明/理学博士	625名



8月19日	10:00～15:00 「大集合！じっけん・たいけん・ものづくり」 ①「サイエンスステージショー」 プレゼンテーションスタジオ 175名 ②「空中こま&紙ヒコーキ工作」 ラウンジ 307名(体験数:146名) ③「技の達人 ネーム彫刻」 多目的スペース 47名(体験数:32名) ④「あら、ふしぎ！不沈子づくり」 多目的スペース 69名(体験数:45名) ⑤「キレイな万華鏡づくり」 多目的スペース 85名(体験数:50名) ⑥「ペットボトル工作」 デジタル工房 471名(体験数:220名) ⑦「恐怖の地震体験車」 芝生広場 152名 ⑧「ミニ工場でいたん紙器づくり」 芝生広場 250名(体験数:90名) ⑨「大きな虹をかけてみよう」 芝生広場 94名 ⑩「ラジコン操作体験」 芝生広場 67名 ⑪「スマートモビリティを操縦してみよう！」 エントランス 49名 ⑫「超滞空ペットボトルロケット」 芝生広場 63名※教育Pカウント外 ⑬「迫力の書道パフォーマンス」 中庭 121名※教育Pカウント外	戸畑工業高等学校 北九州工業高等専門学校 田原中学校 大石産業株式会社 西日本工業大学 バリスマ(超スマート社会「Society5.0」) 北九州連携推進協議会)	1766名
-------	--	---	-------

計 2391名

(12)実践型インターシップ 大学生向け

開催日	内容	参加校	参加人数
10月16日 ～1月29日 (全12回)	KIGS 実践型インターンシップ 「ワークショップ企画開発、実施」 9:00～17:00	北九州工業高等専門学校4年生 3名	36名

計 36名

(13)3館連携事業

開催日時	内容	講師	参加人数
5月12日	11:00～16:00 イオン八幡東店 「トリックカード作り」 参加費用:50円	KIGS スタッフ	126名
7月21日	10:00～16:00 若松みなと祭り 「ころころゴム動力車を作ろう！」 参加費用:無料	KIGS スタッフ	145名
2月17日	10:00～15:00 イオン若松ショッピングセンター 「ころころゴム動力車を作ろう！」 参加費用:無料	KIGS スタッフ	98名
2月27日	15:00～17:30 いのちのたび博物館 東田地区ミュージアムパーク創造事業関連シンポジウム 「発掘！東田地区周辺の歴史と文化資源」 ・「八幡製鐵所の歴史資料」 ・「東田地区周辺の文化財」 ・「北九州の産業技術史に関する調査研究」 ・「北九州の公害克服の歴史」	菅 和彦／新日鐵住金株式会社八幡製鐵所OB 前菌 廣幸／北九州市文化財を守る会理事長 鹿毛 浩之／北九州イノベーションギャラリー館長 中菌 哲／北九州市環境ミュージアム館長	60名

計 429名

(14)その他プロジェクト等

開催月日	内容	参加人数
7月13日 9:00～17:00	福岡県立若松高等学校 北九州キャリア教育「夢授業」 川本マイスター、村上マイスター	48名
7月17日 9:00～17:00	福岡県立八幡南高等学校 北九州キャリア教育「夢授業」 有松マイスター、中村マイスター、村上マイスター	48名

10月16日 13:00～17:00	福岡県立北筑高等学校北九州キャリア教育「夢授業」 吉野マイスター、村上マイスター	50名
10月20日 13:00～17:00	福岡県立八幡中央高等学校北九州キャリア教育「夢授業」 内村マイスター、梅田マイスター	50名
12月3日 10:10～11:30	武末小学校「北九州が生んだ天才気象学者 藤田哲也博士に学ぶ」 松尾正彦/KIGS 調査研究室長	62名

計 258名

#### 4 個人、団体向け教育プログラム

##### (1)個人向けプログラム

##### ①ものづくりミニ体験

開催月	回数	内容	参加人数
4月	12回	「タイムカプセル缶」 ※春企画展連動 参加費:100円	139名
5月	10回	「タイムカプセル缶」 ※春企画展連動 参加費:100円	204名
6月	9回	「タイムカプセル缶」 ※春企画展連動 参加費:100円	144名
7月	3回	「タイムカプセル缶」 ※春企画展連動 参加費:100円	48名
	14回	「くりかえし使える！オリジナルメモパッドを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100円	571名
8月	30回	「くりかえし使える！オリジナルメモパッドを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100円	1326名
9月	12回	「くりかえし使える！オリジナルメモパッドを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100円	407名
10月	2回	「くりかえし使える！オリジナルメモパッドを作ろう」 ※夏企画展連動 参加費:100円	15名
	6回	「きらきらキーホルダー」 ※秋企画展連動 参加費:200円	240名
11月	9回	「きらきらキーホルダー」 ※秋企画展連動 参加費:200円	373名
12月	12回	「きらきらキーホルダー」 ※秋企画展連動 参加費:200円	446名
1月	1回	1月13日「KIGSお年玉企画～ものづくりミニ体験フェア」 11:00～15:00 ・タイムカプセル缶 198名(体験キット数:80名) ・トリックカード 338名(体験キット数:133名) ・雪のしおり 352名(体験キット数:160名) ・フラワー風車 493名(体験キット数:224名) ・ペーパーウエイト 201名(体験キット数:88名) ・紙ヒコーキ 706名(体験キット数:321名) ・紙トンボ 334名(体験キット数:152名) ・プチ凧 491名(体験キット数:223名) ・映像上映 ※教育プログラムカウントなし	3113名
	6回	「きらきらキーホルダー」 ※秋企画展連動 参加費:200円	299名
	3回	「缶バッチ」ミニ体験 参加費:50円	38名
2月	2回	「缶バッチ」ミニ体験 参加費:50円	56名

	7回	「紙鉄砲とパッチンカエル」を作ろう ミニ体験 参加費:無料	108名
3月	14回	「紙鉄砲とパッチンカエル」を作ろう ミニ体験 参加費:無料	144名

計 152回 7,671名

②デジタル工房 見学会

開催月	回数	内容	参加人数
4月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	5名
5月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
6月	3回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	8名
7月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
8月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
9月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	6名
10月	2回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	4名
11月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
12月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	2名
1月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	1名
2月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	1名
3月	1回	入会前の事前説明会(デジタル工房利用手順及び各マシンの性能)	3名

計 18回 38名

③デジタル工房 機材利用講習会

開催月	内容	3Dプリンター	レーザーカッター
4月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2名	5名
5月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2名	0名
6月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2名	6名
7月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	1名
8月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	2名	0名
9月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	4名	3名
10月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	3名	3名
11月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	2名
12月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	1名
1月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	1名
2月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	1名	1名
3月	入会時に実施(マシンの使用方法について説明)	0名	3名

3Dプリンター 計 18名

レーザーカッター 計 26名

## (2)企業団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4月	山九株式会社、大光炉材株式会社、株式会社安川電機	5団体	200名
5月	吉川工業株式会社	1団体	19名
6月	株式会社中村組	3団体	106名
7月	エムイーシーテクノ株式会社	1団体	21名
8月	黒崎播磨株式会社、吉川工業株式会社	2団体	24名
11月	株式会社スガテックプラント事業部	1団体	18名

計 13 団体 338 名

## (3)一般団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4月	平生町商工会(山口)、いこい作業所、薊の会(大野城市)	6団体	126名
5月	環境ボランティア若戸支部	1団体	33名
6月	北九州市立八幡大谷市民センター、放課後等デイサービスわかば	8団体	188名
7月	JICA、北九州市立年長者研修大学校穴生学舎、	8団体	222名
8月	大蔵園デイサービス、北九州市立清見市民センター	12団体	227名
9月	デイサービス恵迪館、ケアハウス小倉、マツダ研心OB会	15団体	331名
10月	帯広商工会議所、アムステルダム(海外クルーズ船)	16団体	586名
11月	湯の谷クラブ、西新小学校区子ども会育成連合会	14団体	342名
12月	いこい作業所、年長者の里パレス三萩野	27団体	410名
1月	放課後等デイサービスゆづき、福岡県世界遺産連絡会議	12団体	187名
2月	産業遺産国民会議、えびの市役所、和白東校区自治協議会	10団体	168名
3月	ウエステルダム、飛鳥IIクルーズと福岡の世界遺産	10団体	370名

計 139 団体 3,190 名

## (4)学校団体向けプログラム

開催月	主な団体	団体数	参加人数
4月	折尾愛真中学校	1団体	137名
5月	北九州市立特別支援学校北九州中央高等学園、大連理工大学	6団体	124名
6月	中原小学校、岩手大学教育学部附属中学校	5団体	351名
7月	熊本県立東稜高等学校、東鳴水学童保育クラブ(東鳴水小学校)	4団体	122名
8月	立命館アジア太平洋大学、西小倉なかよし学童(西小倉小学校)	9団体	534名
9月	北九州市立柳西中学校、広島市立己斐東小学校	6団体	252名
10月	人吉市立第一中学校、北九州市立貫小学校	11団体	586名
11月	諫早市立北諫早中学校、佐世保市立黒髪小学校	15団体	762名
12月	北九州工業高等専門学校、ガチョン大学校(韓国)	5団体	114名

1月	福岡県立戸畑工業高等学校、韓国海洋大学校	6団体	175名
2月	北九州市立早鞆中学校、韓国グミ電子工業高校	2団体	158名
3月	北九州市立枝光台中学校	1団体	81名

計 71 団体 3,396 名

### 【自己評価と今後の課題】

教育プログラムへの参加者数が前年度を大幅に上回る過去最高を更新したのは、KIGS 一体となって市民への認知度アップ、魅力アップに取り組んだ結果である。特に魅力ある企画展の開催による来館者数の大幅増加と、これに連動した教育プログラム参加者増は KIGS スタッフおよび関係者の活性化に大きく寄与したし、今後の KIGS 発展の方向性を示している。今後も教育プログラムだけでなく総体的な取り組みを行っていく。今後の教育活動の課題としては、①科学、工学教育でクローズアップされてきた STEM (Science、Technology、Engineering、Mathematics) 教育やプログラミング教育に関する取り組みの強化、②北九州地域の工業系高校、高専、大学、企業、サークル等との協業による教育・体験プログラムの展開、③当館の認知度が低い年代層への訴求と魅力プログラムの開発、④「北九州市立児童文化科学館」のスペースワールド跡地への移転、リニューアルに伴う当館との連携、差別化の検討などが挙げられる。これらは、北九州市の教育行政の方向性、社会的なニーズの動向を把握し、KIGS の独自性、特長を強化するという考え方のもとで、市民の意見を踏まえながら改善、展開していく。

### Ⅲ. 企画展示事業

---

#### ■春企画展 「～遊ぶ・学ぶ・作る～暮らしを包むパッケージ展」

会 期：平成 30 年 3 月 24 日～平成 30 年 7 月 1 日 100 日間（86 営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、JR 九州、  
西鉄バス北九州㈱

協 力：大石産業㈱、TOTO㈱、㈱日栄紙工社、ヤマト包装技術研究所、容器文化ミュージアム、  
㈱舟崎薬品、昭和ロマン蔵、平川産業㈱、グランド印刷㈱・ARMS、  
新日本ホームズ㈱・falo 大濠、媛福丸、㈱井筒屋、宮井㈱、㈱廣貫堂、  
公益社団法人日本包装技術協会、クサボン（順不同）

観 覧 料：一般：300 円、小中学生：100 円未就学児：無料

（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り）

観覧者数：4017 名（4 月 1 日～7 月 1 日まで）\*3 月 24 日～3 月 31 日まで 464 名

包んで安全に届けことが目的である包装技術。生活に必須となっている包装の歴史と技術革新に着目した。食品鮮度保持機能が高ければ食品の販路拡大につながり、デザインで商品紹介等ができれば包装で PR でき、取扱いを容易にすれば生活が便利になる。これら包装技術の知恵と未来を紹介した。

#### ■夏企画展 「机の上のイノベーション たのしい文房具の世界」

会 期：平成 30 年 7 月 14 日～平成 30 年 9 月 30 日 79 日間（74 営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市 PTA 協議会、北九州商工会議所、JR 九州、  
西鉄バス北九州㈱、北九州オフィスシステム協議会、

企画監修：カシオ計算機㈱、菅公工業㈱、㈱キョクトウ・アソシエイツ、㈱キングジム、㈱呉竹、コク  
ヨ㈱、サンスター文具㈱、シヤチハタ㈱、ショウワノート㈱、ステッドラー日本㈱、スリー  
エムジャパン㈱、セキセイ㈱、ゼブラ㈱、ダイゴ㈱、㈱トンボ鉛筆、ナカバヤシ㈱、ニチ  
バン㈱、㈱パイロットコーポレーション、ぺんてる㈱、マックス㈱、㈱マルアイ、マルマン  
㈱、三菱鉛筆九州販売㈱、ヤマト㈱、㈱レイメイ藤井、デサキ熊本菊陽店、クサボン、ガリ  
版研究会

企画協力：（文具王）高畑正幸、昭和ロマン蔵

観 覧 料：一般：500 円、小中学生：250 円、未就学児：無料

（団体 30 名以上は 2 割引、障害者割引有り、

\*「夏休みこども文化パスポート」提示で、中学生以下無料

\*毎月第二日曜日「わらべの日」は、中学生以下無料

観覧者数：20,665 名

お子さまからお年寄りまで、遊び・勉強・仕事・趣味・生活のありとあらゆる場面で欠かせない『文房具』にスポットをあてた企画展を開催した。昔なつかしいモノから最新のアイデア商品まで、様々なアイテムが大集合し、めざましいイノベーションをとげる『文房具』。その魅力について、ご家族皆様でたっぷり楽しんでいただける体験・体感満載の展示を開催し好評を博した。

■秋企画展 「光のふしぎ展2」

会 期：平成30年10月13日～平成31年1月14日 94日間（76営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、  
西鉄バス北九州㈱

企 画：ステップ・イースト

観 覧 料：一般：300円、小中学生：100円、未就学児：無料  
（団体30名以上は2割引、障害者割引有り）

観覧者数：16,648名

10年前に好評であった光のふしぎ展に続くもので、プロジェクションマッピングやセンサー等この分野の進歩は目覚ましく多彩な空間を創造する光に注目した。人の動きに反応し変化する作品の技術にも興味関心を持ってもらえた。最新のテクノロジーを活用した多彩な変化のあるアイテムを展示したことで小さなお子さんから主婦、カップルにも話題を呼び大いに受けた。

※秋企画展連動展示「万華鏡展」（参考）

会 期：平成30年10月13日～平成31年1月14日（76営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

協 力：KAZU工房 林和子氏

展示会場：多目的スペース、自由観覧

観 覧 料：無料

光のふしぎ展2と関連付けて地元の万華鏡作家の作品を展示した。多種多様な素材を使い、光が魅せる鮮やかな世界に加え、体験できる万華鏡も今回特別に制作し設置。来場者に楽しんでいただいた。

■冬企画展 「長崎街道（シュガーロード）と北九州の路地裏」

会 期：平成31年2月9日～平成31年4月7日 58日間（50営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

後 援：北九州市教育委員会、北九州市PTA協議会、北九州商工会議所、JR九州、  
西鉄バス北九州㈱

協 力：あぜのまち絵本美術館、黒崎歴史ふれあい館、子どもの館、シュガーロード連絡協議会、長崎街道木屋瀬宿記念館、NPO法人わくわーく、KIGS倶楽部セーリングシップ

制 作：北九州市漫画ミュージアム、(株)コルト

観 覧 料：無料

観覧者数：4,453名（2月9日～3月31日まで）

かつて、当館の位置する場所も通った歴史的イノベーションの路「長崎街道」について、近隣施設の力を借り、中村武氏、田中時彦氏の名作67点を初公開した。また、長崎街道について製鐵所周辺の道筋を独自に検証した展示、長崎街道シュガーロードの銘菓を辿る展示、駄菓子・駄玩具体験コーナーや撮影コーナー等も用意し、幅広い層が楽しめるよう工夫した。

■冬特別展 「平成 30 年度未来を見つめる高校生の作品展」

会 期：平成 31 年 1 月 19 日～平成 31 年 1 月 27 日 9 日間（8 営業日）

主 催：北九州市、北九州イノベーションギャラリー

主 管：福岡県高等学校工業クラブ連盟、福岡県工業高等学校長会

出展高校：「未来を見つめる高校生の作品展」

福岡県立戸畑工業高等学校、福岡県立福岡工業高等学校、福岡工業大学付属城東高等学校、福岡県立浮羽工業高等学校、福岡県立三池工業高等学校、福岡県立八女工業高等学校、福岡県立八幡工業高等学校、福岡県立苅田工業高等学校、福岡県立田川科学技術高等学校、福岡県立香椎工業高等学校、福岡県立嘉穂総合高等学校、福岡市立博多工業高等学校、福岡第一高等学校（順不同）

観 覧 料：無料

観覧者数：504 名

福岡県内 13 校の工業系の高校生が年間を通じて取り組んだ作品約 30 数点を一般公開した。エコカーや電子制御された作品、木工の技を見せる作品や染色等、各校の様々なものづくり成果品が並んだ。

### 【自己評価、今後の課題】

実績の見地から筆頭とすべきは、夏と秋の抜きん出た観覧者数、収入額であることは見解の一致するところである。いずれもテーマの選定と具現化、ビジュアル的仕立てに秀でていた点が共通する。

夏は、期間観覧者総数、1 日の平均観覧者数、収入額等においてこれまでの最高値を軽々と超え、続く秋も前年度更新した秋の期間観覧者総数をさらに大きく上回ったばかりか、前年度までの歴代の夏の期間観覧者総数をも軽くしのぐ領域にまで到達し、歴代新記録を達成したばかりの今夏に迫った。

いっぽう、春と冬においては、実績の見地では夏・秋と比較すると大きく見劣りはするものの、例年と比較すると遜色ない数値であったといえる。むしろ、アンケート等利用者満足の見地からすると、前者はユニークかつ深堀の効いた演出や展示構成等が話題を呼び、後者はテーマの意外性や親しみやすい仕立て等が評価を得て、それぞれ実施意義と効果の高いもの、当館の多面性を示すものとなった。

ただ、夏・秋については、来場者が許容限度を超える場合の事前の対策や当日の対応等運営面の課題が表面化したし、春・冬のような地味なテーマを展開する場合、もうひと工夫あればさらに良かった。また、全般的に予算面は場渡り的かつオーバー気味であったので、今後は事前の計画性を強化したい。

特別展については、新たに北九州クラフト協会の作品展を 5 月末 3 日間誘致したほか、前年度に引き続き「未来を見つめる高校生の作品展」を開催するなど、地元ものづくり団体の会場借用希望に応えた。

振り返ってみると、精力的な関連物販の継続（秋・冬）、場外特設コーナーの試行（夏の地面書道や秋の万華鏡展）も好評を博したし、象徴的な展示ビジュアル（春のコンポウノトリやダンプラザウルス）はマスコミに再三取り上げられた。また、後方支援策としての 10 周年記念となった外装や屋外看板の刷新（C I 戦略）や広告板増設（いのちのたび博物館立て看板、スロープ路面プリントの新設）、ここ数年の親しみやすい展示テーマの採択と展開、幅広い協力・出展団体の形成等については、認知度向上、新規客の醸成、新たな来場機会の創出や喚起等にそれぞれ一役買っているものと推測している。

いずれにせよ、本年度の企画展の制作にあたっては、関係者とスタッフで熱心に議論を重ね、担当が精力的に各方面との折衝を重ね、多くのアイデアと協力を得て昇華させることが出来たといえる。その意味では得たものも多く、良きモデルケースとなるものであった。この蓄積を今後につなぐと共にさらに熟成していけるよう努めていく。



## IV.調査研究事業

---

調査研究事業は、

- ◆当館の設立目的のひとつに産業技術の保存継承と人材育成がある。産業技術を理解するには、現物だけでなく個々の技術に秘められた創意工夫や技術者の思い、社会や文化が技術革新に与えた影響、更には技術革新が社会に与えた影響などを後世に伝える必要がある。
- ◆北九州を中心として技術革新の歴史を調査記録し、公開することで北九州の企業が技術革新に果たした役割についてまとめ、理解を深める。
- ◆今進めなければ消滅する可能性のある、すなわち緊急性の高いテーマを優先することを基本方針として調査・研究を行う。

実行にあたっては、

ことを念頭におき、「地元企業への委託研究」、「北九州地区技術士会への委託研究」、「大学への委託研究」「国立科学博物館との共同研究」を実施した。

### 1 「北九州における宇宙環境技術の歴史と発展」の調査研究

平成 16 年に九州工業大学に「宇宙環境技術研究センター」が設立され、宇宙環境への耐性に関する研究を行ってきた。現在、人工衛星の宇宙環境下における耐性試験を行っている施設は、NASA、フランス国立宇宙研究センターと九州工業大学の 3 ヶ所しかない。イトカワに到着した小惑星探査機はやぶさ等、全ての国産宇宙環境実験が九州工業大学で行われている。

平成 25 年から始められた文部科学省の国費留学生優先プログラムに採用され、九州工業大学には「宇宙環境ラボラトリー」に名称を変えて宇宙工学国際コースがスタートし、海外から優秀な人材が招聘されている。超小型衛星時代の到来を予測し、北九州の地で宇宙環境に関するスペシャリストを育成しているのが宇宙環境技術ラボラトリー施設長の趙教授である。

今回の調査研究は、趙教授をして次の世代の研究者のためにまとめた研究結果となったと述べられている。九州工業大学における宇宙環境試験の標準化、市販材料を活用した超小型衛星の開発・打ち上げ試験および宇宙環境技術者の育成等、安価な超小型衛星開発に関わる取り組みについて詳細に調査研究が行われている。

調査研究期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 1 月

研究体制：当館調査研究部門の企画、監修のもと、九州工業大学の趙教授をはじめとする専門家に調査研究を委託。

### 2 「北九州における近現代建築の地域資源としての意味と評価」の調査研究

北九州市は、本州やアジアに繋がる交通の要所であり、近代産業発祥の地であることから、産業都市発展に貢献したさまざまな近現代建築物が多数存在する。

そこで本調査では、旧 5 市がそれぞれのポテンシャルティを發揮し産業発展のために近現代建築がその役割を担い都市を形成していったが、産業構造や都市変遷の中で産業史と建築の関係が薄れてきた今日、近現代建築に刻まれた痕跡をひとつのストーリーとして追憶させることで、シビックプライドを醸成させるための基礎資料策定を目的とした。

本調査は過去の関連文献で一定の評価を得た建築物と旧 5 市+黒崎の主要駅から 2~3 km内外の

徒歩範囲の建築物に絞った。

また有識者へのヒアリングと 151 年間の北九州都市変遷建築年表作成によって、6 エリアの 時代別の都市変遷を明確化することで、エリアごとの街の特徴と近現代建築の関係性を明らかにした。さらにエリア別に建築物の評価分析を行い、エリア別に地域資源の相対的評価をおこなうことで、それらをマッピング化しエリア内の整理を行った。

次年度はこの基礎編を基にして、現存する近現代建築の保存度や利用度に関する調査を行う。

調査研究期間：平成 30 年 4 月～平成 30 年 2 月

研究体制：当館調査研究部門の企画、監修のもと、九州工業大学の佐久間教授をはじめとする専門家に調査研究を委託。

### 3 「クロック」の系統化調査（国立科学博物館と共同調査）

時計には、ウォッチとクロックがある。ウォッチはパーソナルユースとして使用されるが、クロックは中世での時計塔のように、街や家庭で用いられる。中世ヨーロッパでは、神に祈りをささげる時刻を多くの市民に知らせる重要な役割を担ってきた。

このような歴史的背景を持つクロックであるが、その機構的な仕組みから電子化へのアプローチ及びクォーツ化・電波化・衛星電波化などの技術動向を調査した。

本調査は国立科学博物館との共同研究として実施したものである。

調査研究期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

研究体制：国立科学博物館との共同研究

### 4 自己評価と今後の課題

北九州の産業技術革新史の調査・研究は当館の重要な調査研究事業の一つである。今年度の北九州の産業技術に関しては、「北九州における宇宙環境技術の歴史と発展」と「北九州における近現代建築物の地域資源としての意味と評価」を研究対象とした。さらに国立科学博物館と共同で、平成 28 年度の「時計技術」に引き続き日本の特徴的技術である「クロック」の技術を系統的に調査した。

「北九州における宇宙環境技術の歴史と発展」は、宇宙関連では世界的にも注目されている九州工業大学の趙先生を中心に調査研究を進めた意義は大きい。

「北九州における近現代建築物の地域資源としての意味と評価」については、旧五市のそれぞれのポテンシャルと発展を理解するために、北九州を代表する郷土史家へのヒアリングを提案し面談の段取りを行った。古地図や絵葉書や写真の収集と著作権承諾が不可欠であった。

国立科学博物館と共同研究した「クロック」については、ウォッチに対する史的な背景の違いやその機構的な仕組みや電子化へのアプローチ及びクォーツ化等の技術的発展を系統的に調査研究できた。今後は国立科学博物館が主催する「未来技術遺産」認定を睨んだ系統化調査として、地元企業に関係の深い研究テーマ設定に取り組むことも価値があると考えられる。

過去の調査研究資料が蓄積されているので、PDF による報告書の公開への取り組みも価値があると考えられる。

## V. 図書・映像等の収集、制作、公開事業

当施設の設立目的に沿った図書及び映像の収集に努めた。また、その公開を積極的かつ迅速に実施することにより、来館者に対して量的・質的向上とサービスアップを図った。

### 1 図書・資料の収集

新規発行の科学・技術読物、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し、多分野に亘って幅広く購入した。また、種類別のコーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

＜平成 30 年度購入実績＞ 1,154 冊（書籍 730 冊、雑誌 424 冊）

＜平成 30 年度寄贈受入実績＞ 133 冊（社内報 67 冊、報告書等 58 冊、一般書等 8 冊）

### 2 ライブラリーの運営

来館者に対し、公平で良質なライブラリーサービスを提供しながら、利用者の研究や学習の支援に取り組んだ。

#### ◆サービス向上に取り組んだ内容

- ホームページに各月の新着本情報を掲載するとともに、メルマガ会員に向けて KIGS Letter を月 1 回程度配信するサービスを引き続き実施し、利用者の興味を引き、利用頻度向上につなげた。
- 図書分類を設定し、今年度貸出分関する統計をとり、以下の特徴を掴んだ。
  - ・児童向けの貸出件数は一般向けの倍ある。学習漫画、学習書、絵本等が多い。
  - ・一般向け図書は文庫・新書が多く、科学技術、経済・経営、歴史等が多い。一方で単行本棚へのアクセスが少ない。
  - ・デザイン書は建築デザイン、グラフィックデザイン、3D プリンター等が多い。
- 図書利用促進の手段として、人気図書を増やすこと、図書の展示を工夫すること、来客を増やすことを狙い、今年度は人気図書の把握とその増加に取り組んだ。具体的には、統計分析結果を参考に人気本を増やし、利用者の声も反映させた。また、子供向け学習書や古典、保護者向けの家庭学習等新たな分野に関しても需要を確認しつつ、増やしていった。来年度は一般向け図書等にも取り組みを展開する。さらに、不人気本を閉架書庫に移動しながら単行本棚に人気本を増やしていく。
- 企画展観覧目的で来館された一般利用者に、企画展に関連する知識や情報を提供するために、昨年度同様、ライブラリー入口付近に「企画展関連図書コーナー」を設けた。
- 読書週間(8月4日(土)～8月12日(日))に貸出利用者を対象に貸出バッグを進呈するキャンペーンを行った。今回も、告知はがきをライブラリー会員に送付し、利用促進を図った。その結果、通常期より貸出件数が増加した。
- 館内の簡単なクイズラリーを子供向けに実施し、景品としてノベルティを進呈した。その結果、ライブラリーへの立ち寄りの増加が図れた。

#### ◆利用者の声

- デザイナー、建築家、技術者等から、良い書籍が揃っているとの意見をいただいている。今後、その詳細を確認しながら、他の施設では手に入りにくい書籍を揃え、差別化していく。

《ライブラリー利用者数》年間利用者数：8,007人、月平均：667人

※前年度年間利用者数：6033人(月平均502人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	406	493	466	860	1695	783	505	744	629	553	359	514	8,007

《ライブラリー会員数》年間登録者数：215名 ※前年度243名

月	前年繰越	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	退会	合計
人数	1432	4	10	10	29	52	12	17	24	19	15	12	11	3	1,644

《貸出利用回数》年間貸出回数：1,487回(ライブラリー利用者の約18%)

※前年度貸出回数：1,450回(ライブラリー利用者の約24%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
回数	109	106	101	151	275	110	94	113	115	101	88	124	1,487

《貸出利用冊数》年間貸出冊数：年間4,242冊(1回平均2.9冊)

※前年度貸出冊数：年間4,350冊(1回平均3冊)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
冊数	303	274	237	513	739	290	257	303	380	290	265	391	4,242

### 3 映像の制作

今年度も北九州市が認定した「北九州オンリーワン企業」4社の独自技術と製品を一般市民にも分かりやすい技術革新物語として制作した(日・英・中・韓の4カ国語)。

今回も、独創的なオンリーワン技術を分かりやすくするために、技術革新した当時を再現する物語シーンを挿入している。

- ・制作作品： 輝くキタキュウのプロダクツ2～北九州オンリーワン企業物語(約35分)
- ・作品概要： 北九州市が認定する「北九州オンリーワン企業」。その企業が独創的かつ確かな技術で生み出したオンリーワン商品。市場、顧客に寄り添いオンリーワンに挑んだ技術者たちの熱い思いと特徴ある商品の本質に迫った技術革新物語である。

### 4 映像の収集・映像の公開

市販品映像(5作品) DVD

映像タイトル	映像分野	企画会社名	時間(分)	制作年
大科学実験1	その他	NHKエデュケーショナル	80+44	2017
大科学実験2	その他	NHKエデュケーショナル	80+45	2017
大科学実験3	その他	NHKエデュケーショナル	90+47	2017
デザインあ	デザイン	NHKエデュケーショナル	89	2018
でんじろう先生のはびエネ!第1巻	エネルギー	中京テレビ放送株式会社	38	2018

#### (2) 映像の公開

平成29年度に制作した「輝くキタキュウのプロダクツ1～北九州オンリーワン企業物語」(約30分)について、7月の市民セミナーで取り上げ一般公開した。これまで取材等で接触のあった記者やマ

スコミ関係者のリストを作成し、福岡地区のテレビメディアを含めてプレスリリースを配信した、NHK ニュースや西日本新聞でも紹介され大きな反響を呼んだ。

例年通り、TEPIA 先端技術館に寄贈し、同館のビデオライブラリーに登録されインターネット経由で一般公開した。あわせて、YouTube で全編（31分）を公開した。

その他の保有映像は、当館への訪問団体に向け、個別にプログラムした映像の上映を積極的に行った

## 5 自己評価と今後の課題

年間図書利用者が対前年比で 132.7%と大幅に伸長しているが、年間貸出回数は 102.5%の微増に留まり、年間貸出冊数は 97.5%となっている。年間利用者の大幅増は、企画展や工作教室、ワークショップ等の子供向けイベントによるところが大きい。図書の利用の活性化につながられなかった要因のひとつとしては、近隣の八幡東図書館、小倉南図書館の新設オープンが影響しているものと思われる。限られた書籍数で効率的な運営をおこなうためには、①新しい図書分類による貸出傾向の把握②フェース管理の徹底③書籍コーナーの明確化と魅力的な陳列方法の工夫④企画展や工作展との連携の強化⑤読書週間のタイミングと期間延長等の対策を継続して実施する必要がある。

産業映像「輝くキタキュウのプロダクツ2～北九州オンリーワン企業物語」は、例年同様に日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語で編集し、各社個別編集も行った。海外での展示 PR で使用され、活用されている。

ホームページ内のものづくり企業のページへのアクセス増加を図り、各社の認知度の向上や採用活動の活性化への貢献に取り組むことも検討する時期に来ている。トップページにリンクボタンを表示するだけで、年間のアクセス件数が 129,441 件と急増した。各社の掲載情報の更新の有無や可否について連携を強化する必要がある。